教育学原論（77201）

前期

Principles of Pedagogy

教職科目

年次	１年
対象	26 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	小山悦司

授業の概要

現在、教育現場では様々な問題が発生している。授業では、教師になるために不可欠な教育に関する基礎知識（教育の成り立ち、教育の歴史及び思想、教育の目的、内容、方法、教育制度･制度など）について、またそれらを通して教師に求められる資質能力や教職観などについて論ずる。

到達目標

１．教育の基本的概念

1) 教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。

2) 子供･教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。

２．教育に関する歴史

1) 家族と社会による教育の歴史を理解している。

2) 近代教育制度の成立と展開を理解している。

3) 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。

３．教育に関する思想

1) 家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。

2) 学校や学習に関わる教育の思想を理解している。

3) 代表的な教育家の思想を理解している。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20%（到達目標1・2・3を評価）、課題レポートⅠ10%（到達目標1を評価）、課題レポートⅡ10%（到達目標2を評価）、課題レポートⅢ10%（到達目標3を評価）、プレゼンテーション10%（到達目標3を評価）、定期試験40%（到達目標1・2・3を評価）に基づいて成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、資格免許科目であることから、一定水準の確保が要求される。しっかりとした目的意識を持って意欲的に履修されたい。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	現代の教育問題
第3回	教育とは何か１　（人間の成長発達、教育の必要性について）
第4回	教育とは何か２　（学校教育、社会教育、家庭教育の関係）
第5回	教育の歴史及び思想１　（古代ギリシャから中世まで（ｿｸﾗﾃｽ、ｱﾘｽﾄﾃﾚｽなど））
第6回	教育の歴史及び思想２　（ﾙﾈｻﾝｽから19世紀頃ままで（ｺﾒﾆｳｽ、ﾙｿｰ、ﾍﾟｽﾀﾛｯﾁなど））
第7回	教育の歴史及び思想３　（公教育成立後から現代まで（デューイなど））
第8回	教育の歴史及び思想４（脱学校論、生涯学習）
第9回	教育の目的１　（教育の意義・目的）

回数	内容
第10回	教育の目的２　（教育基本法などに定められた教育の意義・目的）
第11回	教育の内容　（教育課程の編成）
第12回	教育の方法
第13回	教育の制度１　（学校制度の成立、日本の教育制度について）
第14回	教育の制度２　（日本の教育行政の仕組み）
第15回	これからの教育および教師のあり方について

授業外学習

・日頃から、ニュースや新聞等の視聴を通して、教育をめぐる現状や課題を把握しておくこと。
・各授業の終了時に、次回の授業に向けて準備する事前学習の内容や重要ポイントについて指示する。
・授業開始時に小テストを実施するので、前回の授業についてよく復習しておくこと。
・課題レポート１・Ⅱ・Ⅲに関する具体的なテーマや作成のポイントについては、授業中に詳しく説明する。
以上の活動や準備等に、合計して６０時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

滝沢和彦編著『教育学原論』ミネルヴァ書房、2018年 ISBN:9784623083688

参考書

佐々木正治編著『新中等教育原理』福村出版、2010年 ISBN:9784571101540

備考

教育学原論（77401）

前期

Principles of Pedagogy

教職科目

年次	１年
対象	26 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	赤木恒雄

授業の概要

現在、教育現場では様々な問題が発生している。講義では、教師になるために必要不可欠な教育に関する基礎知識（教育の成り立ち、教育の歴史及び思想、教育の目的、内容、方法、教育制度･制度など）について、またそれらを通して教師に必要な教職観などについて論ずる。

到達目標

１．教育の基本的概念
1) 教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。
2) 子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。

２．教育に関する歴史
1) 家族と社会による教育の歴史を理解している。
2) 近代教育制度の成立と展開を理解している。
3) 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。

３．教育に関する思想
1) 家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。
2) 学校や学習に関わる教育の思想を理解している。
3) 代表的な教育家の思想を理解している。

評価方法

授業終了前に実施する確認テスト30%（到達目標1，2，3，を評価）、レポート2課題30%（到達目標1，2を評価）、定期試験の成績40%（到達目標2，3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

・教師になるための免許資格科目であることから、高い目的意識を持って履修しなければ単位の取得は厳しい。
・出席は毎回授業開始時に配布する出席用紙により、厳しくチェックする。遅刻３回で１欠席とする。
・講義終了前に講義内容に関する確認テスト（出席用紙）を行い、出席用紙を提出してもらう。次回の講義開始時に前回の確認テストについてコメントする。
・レポートの提出期限を厳守すること。
・飲食物は机上に置かないこと（なお、脱水症状防止のため、自由に給水してよい）。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	現代の教育問題
第3回	教育とは何か１（人間の成長発達、教育･学習の必要性について）
第4回	教育とは何か２（学校教育、社会教育、家庭教育の特色とそれらの関係）
第5回	教育の歴史及び思想１（古代ギリシャから中世まで（ｿｸﾗﾃｽ、ｱﾘｽﾄﾃﾚｽなど））
第6回	教育の歴史及び思想２（ﾙﾈｻﾝｽから19世紀頃まで（ｺﾒﾆｳｽ、ﾙｿｰ、ﾍﾟｽﾀﾛｯﾁなど））
第7回	教育の歴史及び思想３（公教育成立後から現代まで（デューイなど））

回数	内容
第8回	教育の歴史及び思想４（脱学校論、生涯学習）
第9回	教育の目的１（教育目的の意義、目的の設定など）
第10回	教育の目的２（日本の教育目的（日本国憲法・教育基本法など））
第11回	教育の内容（教育課程の編成）
第12回	教育の方法
第13回	教育の制度１（学校制度の成立、日本の教育制度について）
第14回	教育の制度２（日本の教育行政の仕組み）
第15回	教育の課題とこれからの教育・教師のあり方について

授業外学習

学習時間は合計60時間である。
・必ず毎回教科書の該当ページを読み、授業の予習・復習をすること。
・講義内容を理解・整理してもらうために、２つのレポートを課す。
・現在教育が大きく変化しているので、絶えずニュース･新聞等を通して教育に関する動向を把握しておくこと。

教科書

佐々木正治編著『新中等教育原理』改訂版．福村出版,2019.978-4-571-10188-5

参考書

教師養成研究会編『近代教育史』学芸図書
講義中に適宜提示する。

備考

教育心理学（77304）

前期

Educational Psychology

教職科目

年次	１年
対象	26 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	唐川千秋

授業の概要

学校現場での児童・生徒理解にとって必要と思われる基本的な理論・事項について学ぶ。また、教職に就こうと志す者にとっての自己洞察の場ともする。
・生徒を正確に理解するための技法・知識を身につける。
・適切な学級経営を行うための技法・知識を身につける。
・教育評価に関する技法・知識を身につける。

【フィードバック】単元ごとの小テスト返却時に解説・補足説明を行う。

到達目標

（1）幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程
一般目標：幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。
到達目標
1）幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。
2）乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。

（2）生徒の学習の過程
一般目標：生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
到達目標
1）様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。
2）主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。
3）生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。

評価方法

小テストと定期試験により総合的に評価する。評価は、単元ごとの小テスト（40%）（到達目標1・2）、定期試験（60%）（到達目標1・2）の重みで判定する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の申請に必須な科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識をもって履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	教育心理学の意義、教育心理学の歴史的展開 予習：10－18ページを読む。 復習：教育心理学の歴史的展開について研究者名とともに覚える。章末の演習問題（19-20ページ）を解く。
第2回	発達（1）発達を規定する要因、発達段階と発達課題、運動の発達 予習：22-30ページを読む。 復習：遺伝説、環境説から相互作用説への発達観の変遷を理解する。刷り込み、マターナル・ディプリベーションなど、発達初期の重要性について理解する。次回の小テストの準備。

回数	内容
第3回	発達（2）言語能力の発達、知的能力の発達 予習：122-130ページを読む。 復習：Piagetの発達段階について理解する。向社会的行動、道徳性の発達について理解する。章末の演習問題（138ページ）を解く。
第4回	発達（3）社会性の発達 予習：31-36、150-152、165-171ページを読む。 復習：Eriksonの発達段階について理解する。青年期の心身発達の特徴を理解する。章末の演習問題（37-38、174-175ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第5回	パーソナリティと適応 予習：140-144、149-150ページを読む。 復習：パーソナリティの定義および理論（類型論、特性論、構造論）、自我防衛機制について理解する。次回の小テストの準備。
第6回	パーソナリティの測定 予習：144-148、130-137ページを読む。 復習：さまざまなパーソナリティ検査法について理解する。知能の構造、知能検査、知能偏差値等について理解する。章末の演習（153ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第7回	学級集団の理解と指導 予習：172-174、178-188ページを読む。 復習：：集団の特性について理解するとともに、リーダーシップ論、教室で教師に求められる役割について理解する。ソシオメトリック・テストをはじめとした学級構造を理解する方法について理解する。児童生徒の発達にともなう構造変化を理解する。章末の演習（174-175、188-189ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第8回	学習（1）条件づけ、観察学習 予習：60-66ページを読む。 復習：古典的条件づけ、道具的条件づけ、社会的学習理論について理解する。学習理論の教育場面への応用について理解する。次回の小テストの準備。
第9回	学習（2）記憶の仕組みと記憶方略、問題解決 予習：66-73ページを読む。 復習：記憶の分類と構造、問題解決について理解する。メタ記憶、メタ認知を教育場面と関連づけて理解する。章末の演習（74ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第10回	動機づけ、学習意欲 予習：40-57ページを読む。 復習：動機づけの種類、自律的な学習の特徴・メカニズムについて理解する。章末の演習（58ページ）を解く。
第11回	学習指導（1）学習指導の理論 予習：76-83ページを読む。 復習：プログラム学習、発見学習、有意味受容学習について理解する。
第12回	学習指導（2）協働的な学び・主体的な学び 予習：83-92ページを読む。 復習：協同学習の意義と方法を理解する。主体的な学びを支援する方法について理解する。章末の演習問題（94-95ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第13回	教育評価 予習：98-119ページを読む。 復習：教育評価の方法と長所・短所について理解する。研究法について理解する。教育場面で使われるさまざまな統計の式と意味を理解し、計算できるようにする。章末の演習問題（120ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第14回	子どもの不適応とストレス 予習：192-213ページを読む。 復習：カウンセリング・マインドについて理解する。不適応と障害について理解する。いじめについて理解する。章末の演習問題（214ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第15回	障害児の心理 予習：216-231ページを読む。 復習：ADHD、LD、広汎性発達障害の特徴と、支援のあり方について理解する。章末の演習問題（231-232ページ）を解く。

授業外学習

学習時間の目安：各回の授業計画に指示してある予習・復習・小テストへの準備で、各回4時間

予習：教科書の該当ページに目を通して概略を理解する。
復習：各単元の終了時点で小テストを行うので、用語、人名を正確に理解するとともに、概念間の関連性を明確に理解する。
　　教職課程資料室に設置してある教員採用試験の過去問題を解く。

教科書

たのしく学べる最新教育心理学|桜井茂男|図書文化|978-4-8100-7690-5

参考書

適宜紹介する。

備考

教育心理学（77104）

前期

Educational Psychology

教職科目

年次	１年
対象	26 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	唐川千秋

授業の概要

学校現場での児童・生徒理解にとって必要と思われる基本的な理論・事項について学ぶ。また、教職に就こうと志す者にとっての自己洞察の場ともする。
・生徒を正確に理解するための技法・知識を身につける。
・適切な学級経営を行うための技法・知識を身につける。
・教育評価に関する技法・知識を身につける。

【フィードバック】単元ごとの小テスト返却時に解説・補足説明を行う。

到達目標

（1）幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程
一般目標：幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。
到達目標
1）幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。
2）乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。

（2）生徒の学習の過程
一般目標：生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
到達目標
1）様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。
2）主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。
3）生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。

評価方法

小テストと定期試験により総合的に評価する。評価は、単元ごとの小テスト（40%）（到達目標1・2）、定期試験（60%）（到達目標1・2）の重みで判定する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の申請に必須な科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識をもって履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	教育心理学の意義、教育心理学の歴史的展開 予習：10－18ページを読む。 復習：教育心理学の歴史的展開について研究者名とともに覚える。章末の演習問題（19-20ページ）を解く。
第2回	発達（1）発達を規定する要因、発達段階と発達課題、運動の発達 予習：22-30ページを読む。 復習：遺伝説、環境説から相互作用説への発達観の変遷を理解する。刷り込み、マターナル・ディプリベーションなど、発達初期の重要性について理解する。次回の小テストの準備。

回数	内容
第3回	発達（2）言語能力の発達、知的能力の発達 予習：122-130ページを読む。 復習：Piagetの発達段階について理解する。向社会的行動、道徳性の発達について理解する。章末の演習問題（138ページ）を解く。
第4回	発達（3）社会性の発達 予習：31-36、150-152、165-171ページを読む。 復習：Eriksonの発達段階について理解する。青年期の心身発達の特徴を理解する。章末の演習問題（37-38、174-175ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第5回	パーソナリティと適応 予習：140-144、149-150ページを読む。 復習：パーソナリティの定義および理論（類型論、特性論、構造論）、自我防衛機制について理解する。次回の小テストの準備。
第6回	パーソナリティの測定 予習：144-148、130-137ページを読む。 復習：さまざまなパーソナリティ検査法について理解する。知能の構造、知能検査、知能偏差値等について理解する。章末の演習（153ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第7回	学級集団の理解と指導 予習：172-174、178-188ページを読む。 復習：：集団の特性について理解するとともに、リーダーシップ論、教室で教師に求められる役割について理解する。ソシオメトリック・テストをはじめとした学級構造を理解する方法について理解する。児童生徒の発達にともなう構造変化を理解する。章末の演習（174-175、188-189ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第8回	学習（1）条件づけ、観察学習 予習：60-66ページを読む。 復習：古典的条件づけ、道具的条件づけ、社会的学習理論について理解する。学習理論の教育場面への応用について理解する。次回の小テストの準備。
第9回	学習（2）記憶の仕組みと記憶方略、問題解決 予習：66-73ページを読む。 復習：記憶の分類と構造、問題解決について理解する。メタ記憶、メタ認知を教育場面と関連づけて理解する。章末の演習（74ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第10回	動機づけ、学習意欲 予習：40-57ページを読む。 復習：動機づけの種類、自律的な学習の特徴・メカニズムについて理解する。章末の演習（58ページ）を解く。
第11回	学習指導（1）学習指導の理論 予習：76-83ページを読む。 復習：プログラム学習、発見学習、有意味受容学習について理解する。
第12回	学習指導（2）協働的な学び・主体的な学び 予習：83-92ページを読む。 復習：協同学習の意義と方法を理解する。主体的な学びを支援する方法について理解する。章末の演習問題（94-95ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第13回	教育評価 予習：98-119ページを読む。 復習：教育評価の方法と長所・短所について理解する。研究法について理解する。教育場面で使われるさまざまな統計の式と意味を理解し、計算できるようにする。章末の演習問題（120ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第14回	子どもの不適応とストレス 予習：192-213ページを読む。 復習：カウンセリング・マインドについて理解する。不適応と障害について理解する。いじめについて理解する。章末の演習問題（214ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第15回	障害児の心理 予習：216-231ページを読む。 復習：ADHD、LD、広汎性発達障害の特徴と、支援のあり方について理解する。章末の演習問題（231-232ページ）を解く。

授業外学習

学習時間の目安：各回の授業計画に指示してある予習・復習・小テストへの準備で、各回4時間

予習：教科書の該当ページに目を通して概略を理解する。
復習：各単元の終了時点で小テストを行うので、用語、人名を正確に理解するとともに、概念間の関連性を明確に理解する。
　　教職課程資料室に設置してある教員採用試験の過去問題を解く。

教科書

たのしく学べる最新教育心理学|桜井茂男|図書文化|978-4-8100-7690-5

参考書

適宜紹介する。

備考

教育行政学（77105）

前期

Educational Administration

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	高木加奈絵

授業の概要

学校での教育活動を支えるのは、教育行政制度の重要な役割である。こうした教育行政制度に関する基本的な制度や、それに対する様々な論者の理論について学ぶ。このことを通して、学校での教育活動がよりよくなるための教育行政の在り方を考える。

【アクティブラーニング】一部のトピックでグループワークを行う。
【フィードバック】毎回の授業の後に出す宿題に対して、コメントを行う。

到達目標

１．教育に関する制度的事項
1) 公教育の原理及び理念を理解している。
2) 公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。
3) 教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。
4) 教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。

２．学校と地域との連携
1) 地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。
2) 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。

３．学校安全への対応
1) 学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。
2) 生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解している。

評価方法

授業後に出される宿題30%、定期試験70%の総合点で評価する。合計60点以上を合格とする。

注意事項

１．授業後に課される宿題はすべて提出することが当然であろうが、特に宿題を5回以上提出しなかった場合は、その時点で単位を与えないので、注意すること。
２．課題をメール等で提出させるので、PCやスマートフォン等のネット環境を整えておくことが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス—教育行政学を学ぶ意義— 予習：教科書を購入し、気になる箇所を一読する。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第2回	誰が教育政策を作っているのか？ 予習：教科書の「第1章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第3回	国と地方の教育政策形成システム 予習：教科書の「第2章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。

回数	内容
第4回	教育基本法と教育行政 予習：教育基本法の新旧対照表を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第5回	一条校と義務教育 予習：「一条校」、「義務教育」という言葉を調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第6回	教育目的の法定 予習：配布した論文を読んでくる。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第7回	教育委員会制度の歴史と制度変更 予習：教育委員会制度について調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第8回	教育委員会制度の現在と教育振興基本計画 予習：教育振興基本計画について調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第9回	教育課程行政と教科書制度 予習：教科書の「第10章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第10回	主要な教育裁判の判例 予習：伝習館高校裁判について調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第11回	教育裁判を支えた論理 予習：国民の教育権論について調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第12回	学校と地域の連携 予習：事前に配布した資料を読んでくる。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第13回	学校安全と教育行政 予習：事前に配布した資料を読んでくる。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第14回	社会教育 予習：教科書の「第8章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第15回	教育改革の国際比較 予習：いくつかの国の教育改革について調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。

授業外学習

予習：教科書の該当ページを読み、概要を把握しておく。

復習：授業後に出された課題を解き、前回の授業について整理し、理解しておく。

以上の活動や準備等に、合計して60時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

勝野正章・藤本典裕（編）『改訂新版 教育行政学』2015年、学文社。978-4762024900

参考書

授業中に適宜提示する。

備考

教育行政学（77501）

前期

Educational Administration

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	赤木恒雄

授業の概要

現在、いじめ・自殺問題、教科書問題、全国学力・学習状況調査の実施に伴う問題、教師の体罰や教師の地位に関する問題など、さまざまな問題が生じており、教育行政はこれらの問題に絶えず取り組んでいる。講義では、これらの教育問題を理解するために必要不可欠な教育行政に関する基礎的知識（公教育の原則、教育行政の原理、教育行政の組織、学校教育に関係する事項、学校安全への対応、学校と地域との連携、教職員に関係する事項等）について概説する。なお、行政は法規の執行に他ならないことから、教育行政と同時にその背景にある教育法規についても論ずる。さらに、現在教育制度･行政等が大きく変化してきているので、トピックの形で、教育行政に関わる話題を取り上げる。

到達目標

１．教育に関する制度的事項
1) 公教育の原理及び理念を理解している。
2) 公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。
3) 教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。
4) 教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。

２．学校と地域との連携
1) 地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。
2) 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。

３．学校安全への対応
1) 学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。
2) 生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解している。

評価方法

授業終了前に行う確認テスト30%（到達目標1，2，3，を評価）、レポート2課題 30%（到達目標1，3を評価）、定期試験40%（到達目標1，2，3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

・教員になるための免許資格科目であることから、高い目的意識を持って履修しなければ単位の取得は厳しい。
・出席は授業開始時に配布する出席用紙により、厳しくチェックする。遅刻は３回で１欠席とする。
・講義終了前に講義内容に関する確認テスト（出席用紙を使用）を行い、出席用紙を提出してもらう。次回の講義開始時に前回の確認テストに対してコメントする。
・レポートの提出期限を守ること。
・机上に飲み物を置かないこと（脱水症状防止のために、飲むのは制限しない）

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	公教育の原理・理念及び、我が国の教育行政の歴史
第3回	戦後の教育行政･法規の原則
第4回	教育法規の体系と基本法規

回数	内容
第5回	教育制度を支える教育行政１（中央教育行政の組織と機能）
第6回	教育制度を支える教育行政２（地方教育行政の組織と機能）
第7回	学校教育と教育行政機能１（学校の体系･設置認可・施設など）
第8回	学校教育と教育行政機能２（学校の組織・編成、地域との連携など）
第9回	学校教育と教育行政機能３（教育課程と学校の保健･安全など）
第10回	学校教育と教育行政機能４（児童生徒の就学の義務など）
第11回	学校教育と教育行政機能５（児童生徒の管理･懲戒･体罰など、地域との連携）
第12回	学校教育と教育行政機能６（学校の保健と学校安全への対応など）
第13回	教職員１（任用及び身分保障、職務など）
第14回	教職員２（服務規律･研修など）
第15回	教員の教育行政への取り組み方について　－まとめ－

授業外学習

学習時間の目安は合計60時間である。

・教育行政を扱う時には、必ずその背後にある教育法規について触れざるを得ないので、授業の予習･復習、特に復習を必ず行うこと。

・講義内容を理解・整理してもらうために、２つのレポートを課す。

・現在教育が大きく変化しつつあるので、絶えずニュース･新聞等を通して教育に関する動向を把握しておくこと。

教科書

蘇我雅比児著『公教育と教育行政』大学出版,2015.978-86429-300-6

参考書

１．坂田仰他著『図解･氷塊教育法規』(新訂第3版)教育開発研究所,2017.

２．村上祐介編著『教育委員会改革5つのポイント』学事出版,2014.

３．古川治他編著『教師のための教育法規・教育行政入門』ミネルヴァ書房,2018.

４．講義中に適宜提示する。

備考

生涯学習概論（77252）

後期

Introduction to Life-long Learning

教職科目

年次	３年
対象	24 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	赤木恒雄

授業の概要

1965年に生涯教育論が提唱されて以来、我が国をはじめ諸外国も教育が生涯学習の観点から再編されてきた。我が国では、臨時教育審議会答申以降、生涯学習体制の整備が急速に進んでいる。その中で、社会教育は生涯学習政策の中心的役割を果たしてきたが、同時に大きな問題を抱えている。
講義では、生涯学習の考え方を明確におさえながら、生涯学習と社会教育および学校教育との関係、生涯学習に向けての歴史的動向、生涯学習施設、成人の学習方法、学習情報提供および学習相談等について論ずる。そしてそれらを踏まえて、学習機会の保障のあり方について、理論的側面と実際的側面を織り交ぜて論述する。

到達目標

１．生涯学習の考えを理解し、社会教育・学校教育・家庭教育の関係について説明できるようになる。
２．生涯学習の歴史及び政策、それに伴う問題点について理解・説明できるようになる。
３．成人の発達特性、成人教育の学習原理、成人の学習を理解・説明できるようになる。
４．生涯学習支援体制（制度、施設、指導者、学習情報提供など）について理解・説明できるようになる。

評価方法

授業最後に実施する確認テスト30%（到達目標1，2，3，4を評価）、レポート20%（到達目標1，2を評価）、施設訪問レポート20%（到達目標３を評価）、定期試験45%（到達目標１，３，４を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

・学芸員や教員になるための資格免許科目であるので、高い目的意識を持って履修しなければ単位の取得は厳しい。
・出席は授業開始時に配布する出席用紙により、厳しくチェックする。遅刻は3回で１欠席とする。
・講義終了前に講義内容に関する確認テスト（出席用紙）を行い、解答した出席用紙を提出してもらう。次回の講義開始時に確認テストについてコメントする。
・机上には飲食物を置かないこと（脱水症状防止のために、飲むことは禁止しない）。
・レポートの提出期限を守ること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	生涯教育の概念
第3回	社会教育・学校教育・家庭教育の関係、生涯学習とリカレント教育との関係
第4回	生涯学習施設の概念　　（レポートI の課題の提示）
第5回	社会教育施設（公民館・図書館・博物館）とその課題
第6回	生涯学習施設（教育委員会以外の行政機関・民間教育機関）とその課題
第7回	社会教育の歴史　　（施設訪問レポートの課題の提示）
第8回	1970年以降の生涯学習政策の動向
第9回	生涯学習政策における課題
第10回	成人学習者の特徴(成人の発達特性)

回数	内容
第11回	生涯学習の方法･形態及び成人の学習について
第12回	生涯学習指導者及び指導者に求められる能力について　（レポートII の課題の提示）
第13回	学習情報提供とその課題について
第14回	学習相談のあり方について
第15回	学習機会の保障に向けて －まとめ－

授業外学習

学習時間の目安は合計60時間である。
・必ず授業で学ぶ内容について、テキストの該当ページを読み、予習・復習をすること。
・講義内容を理解・整理してもらうために、２つのレポートを課す。
・講義だけでは理解しにくいので、上記のレポート以外に生涯学習施設の訪問インタビューに基づき、施設訪問のレポートを課す。
・現在教育を含む社会が大きく変化しつつあるので、絶えずニュース・新聞等を通して社会に関する動向を把握しておくこと。

教科書

『生涯学習社会の構築』|佐々木正治編|福村出版|978-4-571-10138-0

参考書

佐々木正治編『21世紀の生涯学習』福村出版、2000.
渡邊洋子著『生涯学習時代の成人教育学　学習者支援へのアドヴォカシー』明石書店,2002.
鈴木真理他編『社会教育の施設論』学文社,2015.
他の参考書等については講義中に適宜提示する。

備考

教育課程論（77553）

後期

Theory of Curriculum and Teaching

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	赤木恒雄

授業の概要

学習指導要領が「ゆとり教育」から「確かな学力」へ、さらに平成29年度にはアクティブ･ラーニングを重視する学習指導要領に改訂され、教育現場が大きく揺れ動いている。そこで、講義では、教員が教育を行っていく上で、必要不可欠な教育課程における基本的な内容について論ずる。具体的には、教育課程を編成するための諸原理･方法、編成の仕方に基づく教育課程の類型、教育課程に大きな影響を及ぼす学習指導要領(歴史的変遷も含む)及び教科書問題、重要なカリキュラム・マネジメントなどである。

到達目標

１．教育課程の意義
1)学習指導要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。
2)学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。
3)教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。

２．教育課程の編成の方法
1)教育課程編成の基本原理を理解している。
2)教科･領域を横断して教育内容を選択･配列する方法を例示することができる。
3)単元･学期･学年をまたいだ長期的な視野から、また生徒や学校･地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。

３．カリキュラム・マネジメント
1)学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。
2)カリキュラム評価の基礎的な考えを理解している。

評価方法

授業終了前に毎回実施する確認テスト30%（到達目標１，２，３を評価）、レポート2課題30%（到達目標1，2を評価）、定期試験40%（到達目標1，2，3を評価）により成績を評価し、総合60点以上を合格とする。

注意事項

・教師になるための免許資格科目であることから、高い目的意識を持って履修しなければ単位の取得は厳しい。
・出席は授業開始時に配布する出席用紙により、厳しくチェックする。遅刻は３回で１欠席とする。
・講義終了前に講義内容に関する確認テスト（出席用紙を使用）を実施する。次回の講義開始時に前回の確認テストについてコメントする。
・レポートの提出期限を守ること。
・机上には飲み物を置かないこと（脱水症状防止のために、飲むのは制限しない）。
・スマホ・携帯電話の電源を切ること。
・授業はパワーポイントを使用して行う。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	教育課程の基礎概念
第3回	教育課程の編成原理･方法
第4回	教育課程の編成･評価

回数	内容
第5回	教育課程の構造と類型１（教科教育課程、学習者中心教育課程）
第6回	教育課程の構造と類型２（社会中心教育課程、学問中心教育課程、人間中心教育課程）
第7回	教育課程の現代的課題（「生きる力」「確かな学力」の必要性について）
第8回	教育課程行政と学習指導要領
第9回	学習指導要領の変遷１（昭和22年度版から昭和43年度版まで）
第10回	学習指導要領の変遷２（昭和52年度版から平成20年度版まで）
第11回	学習指導要領と教科書
第12回	教科書検定制度
第13回	教科書を取り巻く諸問題
第14回	新しい動向（総合的な学習）
第15回	平成29年度版学習指導要領とカリキュラム･マネジメント

授業外学習

この授業の授業外時間数は60時間である。
・必ずテキストを事前に読み、また授業後には復習をすること。
・講義内容を理解・整理してもらうために、２つのレポートを課す。
・現在教育が大きく変化しつつあるので、絶えず教育に関する新しい動向を把握しておくこと。

教科書

山田恵吾他『学校教育とカリキュラム』文化書房博文社,2015.978-4-8301-1278-2

参考書

１．日本カリキュラム学会編『現代カリキュラム事典』ぎょうせい,2001.
２．柴田義松『教育課程論－カリキュラム入門』有斐閣,2000.
３．『カリキュラムマネジメントハンドブック』ぎょうせい,2016.
４．山崎保寿『教育課程論－学習指導要領からカリキュラム・マネジメントまで－』学陽書房.2019.
５．授業中に適宜提示する。

備考

教育課程論（77155）

後期

Theory of Curriculum and Teaching

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	高木加奈絵

授業の概要

教育課程の編成は、教員が教育活動をする際に最も重要な職務の一つである。本授業では、教育課程編成にあたって重要な学習指導要領の内容の変遷や、教育課程編成の基本的な考え方、評価の仕方を学ぶ。この際、今般の学習指導要領の改訂で導入されたカリキュラム・マネジメントの意義を学生に考えさせる。

【アクティブラーニング】一部のトピックでグループワークを行う。
【フィードバック】毎回の授業の後に出す宿題に対して、コメントを行う。

到達目標

到達目標
１．教育課程の意義
１）学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を説明できる。
２）学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を説明できる。
３）教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。

２．教育課程編成の方法
１）教育課程編成の基本原理を理解している。
２）教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。
３）単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童及び生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。

３．カリキュラム・マネジメント
１）学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を説明できる。
２）カリキュラム評価の基礎的な考え方を説明できる。

評価方法

授業後に出される宿題30%、定期試験70%の総合点で評価する。合計60点以上を合格とする。

注意事項

１．授業後に課される宿題はすべて提出することが当然であろうが、特に宿題を5回以上提出しなかった場合は、その時点で単位を与えないので、注意すること。
２．課題をメール等で提出させるので、PCやスマートフォン等のネット環境を整えておくことが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス—教育課程論を学ぶ意義— 予習：教育課程という言葉を調べてくること。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第2回	教育課程の意義 予習：教育課程編成が何に基づいてなされているのかを調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。

回数	内容
第3回	教育課程の基本原理 予習：参考書の「第4章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第4回	教育課程の変遷（１）―経験主義から系統主義へ― 予習：経験主義、系統主義という言葉を調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第5回	教育課程の変遷（２）―「ゆとり」と新学力観― 予習：新学力観という言葉を調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第6回	教育課程の変遷（３）―「ゆとり教育」と生きる力― 予習：生きる力という言葉を調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第7回	教育課程の編成（幼・小） 予習：学習指導要領の該当箇所を読んでくる。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第8回	教育課程の編成（中・高） 予習：学習指導要領の該当箇所を読んでくる。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第9回	教育課程の編成（特別支援学校） 予習：学習指導要領の該当箇所を読んでくる。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第10回	カリキュラム・マネジメント 予習：学習指導要領の該当箇所を読んでくる。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第11回	カリキュラム評価 予習：教育評価の種類を調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第12回	教科書検定制度と教科書使用義務 予習：教科書検定制度について調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第13回	教科書裁判 予習：家永教科書裁判について調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第14回	国際学力調査とカリキュラム 予習：PISA、TIMSS調査について調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第15回	よりよい教育を目指した教育課程編成に向けて 予習：ここまで学んだことをもとに、「よりよい教育課程編成」とは何かについて、考えて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。

授業外学習

予習：教科書の該当ページを読み、概要を把握しておく。

復習：授業後に出された課題を解き、前回の授業について整理し、理解しておく。

以上の活動や準備等に、合計して60時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

田中耕治ほか『有斐閣アルマ 新しい時代の教育課程 第4版』2018年、有斐閣。978-4641221079
文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 総則編』2017年。9784827815597
文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年度告示）解説 総則編』2018年。9784491036397

備考

美術科教育法Ⅰ（77302）

前期

Method of Teaching Fine Art Ⅰ

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 18 N
単位数	２．０単位
担当教員	五十嵐英之

授業の概要

中学校、高等学校における現状の課題を理解し、学校現場で美術教育を実践できる力を養う。
そのために必要な美術科に関する知識、教育技術などを実践的に学ぶ。
教育基本法や学習指導要領など美術科教育に必要な事柄を学ぶ。
美術科教員に必要な教育的視点について体験をとおして客観的に把握する。

到達目標

学校現場における美術科教育について深く理解する。
美術の創造活動の喜びを味わったり愛好する心情をとは何か考える。
美術の基礎的な能力を伸ばすための教育内容を考える。またその指導に関する知識や技術を身につける。

評価方法

美術科学習指導案作成提出 30%
模擬授業20%
レポート：美術科教育の歴史、美術科の教育の単元、美術科模擬授業のレポート50%
総合計60点以上を合格とする

注意事項

各回の授業終了後 レポート提出。

授業計画

第１回：美術科教育法を学ぶ意味について。学校現場の現状を捉えて。
第２回：中学校及び高等学校におけるカリキュラムについて。教育基本法、学習指導要領等の内容。
第３回：教材研究の重要性について 。
第４回：教材研究Ⅰ 表現について 絵、彫刻。
第５回：教材研究Ⅱ 表現について デザイン、工芸。
第６回：教材研究Ⅲ 表現について 技能に関すること。
第７回：教材研究Ⅳ 鑑賞について 作者の意図や創造的な表現。
第８回：教材研究Ⅳ 鑑賞について 生活を豊かにする美術。
第９回：教材研究Ⅴ 鑑賞について 日本の美術、世界の美術。
第１０回：授業実践体験Ⅰ 学習指導案作成 指導計画と授業。
第１１回：授業実践体験Ⅱ 学習指導案作成 単元について。
第１２回：授業実践体験Ⅲ 学習指導案作成 評価について。
第１３回：授業実践体験Ⅳ 教材と教具について。
第１４回：授業実践体験Ⅴ 描画の発達 描画の発達段階 学齢における表現の特性について。
第１５回：これからの美術教育についてのディスカッション。

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
模擬授業の指導案を作成する。 模擬授業資料を収集する。
模擬授業におけるIT機器の使用について、実際に扱い確認を行う。

教科書

中学校学習指導要領解説

参考書

中学校高等学校の単元集、中学生の参考作品資料、学習指導案の書き方とその例

備考

美術科教育法Ⅱ（77552）

後期

Method of Teaching Fine Art Ⅱ

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 18 N
単位数	２．０単位
担当教員	近藤千晶

授業の概要

学校現場における教育の実践力を養うため、美術科教育を多角的に捉える。
教育関連の法律理解と学習指導要領の理解、学校現場における教育的課題に対する解決法、教育理論や教育内容などについて考える。
また、美術教育の指導者として求められることは何か、教育の特性など、ディスカッションを通して理解を深める。
【アクティブラーニング】グループディスカッションを取り入れている。
【フィードバック】レポートに対する講評や省察などの指導を行っている。

到達目標

①学校現場における教育の実践力を養うために、美術科教育を多角的に捉えることができる。
②美術科授業の構想を練り、教科の特性を理解することができる。

評価方法

美術科学習指導案作成提出（到達目標②) 30%
グループディスカッション（到達目標①②）20%
小レポート（到達目標①）50%
総合計60点以上を合格とする

注意事項

各回授業終了後レポート提出

授業計画

第1回：美術科教育の歴史　教育関連の法律の変遷
第2回：学習指導要領の必要性　学校現場における学習内容について
第3回：教材研究1　他教科との関連について
第4回：教材研究2　学校教育における美術教育の位置付け
第5回：教材研究3　地域性と美術教育
第6回：教材研究4　社会状況の変化と美術教育
第7回：教材教育5　発達と美術①　五感と教育
第8回：教材教育6　発達と美術②　描画の発達段階
第9回：教材教育7　発達障害と美術教育
第10回：学習指導案の作成1　単元について
第11回：学習指導案の作成2　授業計画と本時について
第12回：学習指導案の作成3　教材理解　指導観　生徒理解
第13回：学習指導案の作成4　評価の観点について
第14回：美術科教育の課題について　ディスカッション
第15回：美術科教育に求められるもの

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
模擬授業の指導案を作成する。
模擬授業の資料を収集する。
模擬授業におけるIT機器について、試験的な確認を行う。

教科書

中学校学習指導要領

参考書

日本国憲法　教育基本法　学校教育法　学習指導案集

備考

理科教育法Ⅰ（77106）

前期

Method of Teaching Science Ⅰ

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 20 B,Y,M
単位数	２．０単位
担当教員	有岡達生

授業の概要

H29年に大幅改訂された新学習指導要領では、理科の目標が以下のように示された。
「自然の事物・現象に関わり、〈理科の見方・考え方〉を働かせ、見通しを持って観察・実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な〈資質・能力〉を次の通り育成することをめざす。
(1)自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身につけるようにする。
(2)観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
(3)自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。」
とある。
　このことを踏まえて将来、中・高等学校の理科教員をめざす学生に対し、理科教育の課題や目標、観察・実験の留意点、評価、指導案の作成等の学習を通して、新学習指導要領が目指す教育の確実な実施に向けて、授業作りの理論と実践を解説する。

到達目標

授業の到達目標及びテーマ
１．学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。
１）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
３）当該教科の学習評価の考え方を理解している。
４）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
５）発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。
２．基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
１）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
２）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用する
ことができる。
３）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することが
できる。
４）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
５）当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

レポート・小テスト・発表（７０％）
授業への参画度（３０％）
総合計60点以上を合格とする

注意事項

本科目は、教育職員免許状の申請に必須の科目なので、一定水準以上の学習成果を修めることが要求される。毎回の復習をし、しっかりとした目的意識を持って参加しよう。

授業計画

第１回：ガイダンス（シラバスを用いて各回の講義内容の説明、参考文献の紹介、事前アンケート、諸連絡等）
第２回：各種データから見る理科教育の現状と課題
第３回：新学習指導要領のポイント
第４回：新学習指導要領の目標である「理科の見方・考え方」「資質・能力」について
第５回：「学びに向かう力・人間性等」「思考力・判断力・表現力」と授業作り
第６回：身近な自然の教材を活用し、「科学的に探究する力と態度」を育てる授業作り

第７回：ICT機器の活用について
第８回：ICT機器を活用した授業作り（グループ活動を含む）
第９回：観察・実験を重視した授業の意義と指導法
第１０回：観察・実験授業における安全指導
第１１回：環境問題をテーマとした教材開発
第１２回：理科教育の法的根拠について（教員採用試験対策）
第１３回：指導案の書き方
第１４回：指導案の書き方（特に、評価についてグループ協議）
第１５回：身の回りの不思議を科学する（教材開発、グループ発表）
定期試験：実施しない

授業外学習

学習時間のめやす：合計６０時間
具体的な内容については、毎回の授業時に指示する。

教科書

教職教養30日完成 2021年度版」時事通信出版局（編集）1,100円

参考書

「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」（最新版） 文部科学省
「中学校学習指導要領解説 理科編 理数編」（最新版） 文部科学省
授業において適宜プリントを配布する。

備考

理科教育法Ⅱ（77156）

後期

Method of Teaching Science Ⅱ

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 20 B,Y,M
単位数	２．０単位
担当教員	有岡達生

授業の概要

理科教育法Ⅰを踏まえ、「理科の見方・考え方」をどのような場面で働かせると、児童・生徒にどのような「資質・能力」が育成されるのかについて、様々なALの紹介や具体的な授業実践を通して学習する。特に、この理科教育法Ⅱでは、受講生自身による観察や模擬授業の実践及び討論を通して、より実践的な授業力を身につける事をめざす。

到達目標

授業の到達目標及びテーマ

１、学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

１）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。

２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。

３）当該教科の学習評価の考え方を理解している。

４）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。

５）発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

２、基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

１）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。

２）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。

３）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。

４）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

５）当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

レポート・試験（４０％）

模擬授業の発表内容（３０％）

授業への参画度（３０％）

総合計60点以上を合格とする

注意事項

本教科は、教育職員免許状の申請に必須の科目であるため、一定水準以上の学習成果を修める事が要求される。しっかりとした目的意識を持って参加しよう。

授業計画

第１回：ガイダンス（シラバスを用い、各回の講義内容の説明、参考文献の紹介、諸連絡等）

第２回：理科教育の目標（育成すべき資質・能力等）

第３回：仮説を立てる力を育てる授業例（グループ学習）

第４回：フィールドワークの意義と重要性（身近な自然の教材の効果的な活用法について）

第５回：情報機器及び教材の効果的な活用法について（グループ学習を含む）

第６回：様々なAL(ジグソー法、KP法、反転授業、クイズ形式etc）について

第７回：理科の授業計画①（学習指導案についてグループ協議）

第８回：理科の授業計画②（評価についてグループ協議）

第９回：理科の授業計画③（情報機器及び教材の活用法についてグループ協議）

第１０回：理科の授業計画④（観察・実験における安全教育について事例研究）

第１１回：授業研究（授業見学）

第１２回：模擬授業①（物理・化学分野の模擬授業と研究協議）
第１３回：模擬授業②（生物・地学分野模擬授業と研究協議）
第１４回：模擬授業③（中学理科分野の模擬授業と研究協議）
第１５回：私がめざす理想の授業（模擬授業の総括）
定期試験：実施しない

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間
具体的な内容については、毎回の授業時に指示する。

教科書

各自が使用した高校時代の「化学基礎」or「生物基礎」の教科書

参考書

「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」（最新版） 文部科学省 （近日中に発刊予定）
「中学校学習指導要領解説 理科編」（最新版） 文部科学省
「アクティブラーニング入門２」小林昭文 産業能率大学出版社

授業において適宜プリントを配布する。

備考

情報科教育法Ⅰ（77102）

前期

Method of Teaching Information Technology　Ⅰ

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 18 K,I
単位数	２．０単位
担当教員	梶浦文夫

授業の概要

高等学校「情報」の目標や内容について、広く学ぶ。教科の内容である「情報機器を活用した情報の収集、処理、発信」、「情報の科学的理解」、「情報社会に参加する態度」などについて学ぶとともに、どのように学習指導すべきかを模擬授業などを通じて理解させる。

到達目標

１　高校の教科「情報」の扱う範囲を説明できる。
２　授業計画を立てることができる。
３　板書計画を立てることができる。
４　学習指導案を作成できる。

評価方法

レポート３０％（到達目標２，３および４）、模擬授業３０％（到達目標１，２，３および４）、定期試験４０％（到達目標１および２）で総合的に評価する。
総合計60点以上とする

注意事項

自らが教壇に立って授業をするという意識を持って臨んでください。

授業計画

1週目：講義の目的、特徴、注意点などについての説明
2週目：普通教科「情報」および専門教科「情報」の目標と内容
3週目：情報とメディア１　情報通信技術の発達、情報の特長
4週目：情報とメディア２　インターネットでの情報検索法、メディアとは
5週目：板書中心の授業計画（１）「情報とメディア」
6週目：板書による説明の練習「情報とメディア」
7週目：情報社会と情報モラル１　情報社会の問題点、情報セキュリティ
8週目：情報社会と情報モラル２　情報社会における法と個人の責任
9週目：板書中心の授業計画（２）「情報社会と情報モラル」
10週目：板書による説明の練習「情報社会と情報モラル」
11週目：ディジタル情報と情報の活用１　アナログとディジタル、コンピュータのしくみ
12週目：ディジタル情報と情報の活用２　情報のディジタル表現、情報の表現と伝達
13週目：板書中心の授業計画（３）「ディジタル情報と情報の活用」
14週目：板書による説明の練習「ディジタル情報と情報の活用」
15週目：総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
講義の性質上、模擬授業など学生が高校教師役となって授業を行う機会が多い。模擬授業の前に、下調べ、指導案の準備、板書計画などをしておく必要がある。 また、授業案は模擬授業の結果を見て何度も何度も改善していくべきものなので、講義の後には指摘された授業案を手直ししなければならない。毎回予習と宿題の指示を行う。

教科書

使用しない。授業中に適宜資料を配布する。

参考書

書籍、Web サイトなど適宜講義中に紹介する。

備考

情報科教育法Ⅱ（77452）

後期

Method of Teaching Information Technology　Ⅱ

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 18 K,I
単位数	２．０単位
担当教員	梶浦文夫

授業の概要

情報科教育法１では、高校情報で扱う内容の理解、板書による説明のしかた、授業計画の立て方などを学んだ。情報科教育法２では、高校情報の範囲の残りの部分と、パソコン実習室での授業の計画、模擬授業も実際に体験する。

到達目標

１ パソコン 実習室での授業、実習を計画できる。
２ 実習に必要な資料を作成できる
３ パソコン実習室での授業、実習を指導できる。
総合計60点以上を合格とする

評価方法

レポート３０％（到達目標１および２）、模擬授業３０％（到達目標１および３）、定期試験４０％（到達目標１および３）で総合的に評価する。

注意事項

情報科教育法Ｉを既に履修している人のみ履修可能。自らが教壇に立って授業をするという意識を持って臨んでください。

授業計画

1週目：講義の目的、特徴、注意点などについての説明
2週目：情報通信ネットワーク１　コミュニケーション手段の発達
3週目：情報通信ネットワーク２　インターネットのしくみ
4週目：情報通信ネットワーク３　インターネットの活用
5週目：授業計画の作成（４）「情報通信ネットワーク」
6週目：板書による説明の練習「情報通信ネットワーク」
7週目：パソコン実習室での授業おける注意点
8週目：通常授業と実習型授業
9週目：情報通信ネットワークをさらに理解するための実習の計画
10週目：模擬授業と講評１　グループ１
11週目：模擬授業と講評１　グループ２
12週目：ディジタル情報と情報の活用をさらに理解するための実習の計画
13週目：模擬授業と講評２　グループ１
14週目：模擬授業と講評２　グループ２
15週目：総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
パソコン実習室での実習を想定した模擬授業など学生が高校教師役となって授業を行う機会が多い。模擬授業の前に、下調べ、指導案の準備などをしておく必要がある。また、授業案は模擬授業の結果を見て何度も何度も改善していくべきものなので、講義の後には指摘された授業案を手直ししなければならない。毎回予習と宿題の指示を行う。

教科書

使用しない。授業中に適宜資料を配布する。

参考書

書籍、Web サイトなど適宜講義中に紹介する。

備考

美術科教育法Ⅲ（77202）

前期

Method of Teaching Fine Art Ⅲ

教職科目

年次	３年
対象	24 ～ 18 N
単位数	２．０単位
担当教員	田丸稔

授業の概要

中学校の美術科授業構築について、できるだけ実践的なアプローチで考察する。自己表現の時間という前提のもとで、クラスに応じて臨機応変に教材を研究し授業を展開してゆくための基本的な理念を、あくまで各々の実作品制作経験に基づいて構築を試みる。

到達目標

1）実際使うに足る授業の指導案、本事案を作成する。
2）指導案を使用し、適切、的確にプレゼンテーションする。

評価方法

　受講態度等（２０％）、課題提出（８０％）の割合で評価する。
総合計60点以上を合格とする

注意事項

用具の準備等は逐次学内の掲示板にて告知。連絡の無い場合は、スケッチブックあるいはクロッキー帳、筆記用具等を各自持参のこと。

授業計画

1週目：ガイダンス
2週目：美術教育と中高学校教育の実際I（学習指導要領）
3週目：美術教育と中高学校教育の実際II（中学校美術教科書）
4週目：美術教育の意義について
5週目：教材研究および模擬授業I（グループワークによる指導案作成と当番学生による模擬授業の実施）
6週目：教材研究および模擬授業III（Ｉを受けて改善を試みた指導案に基づく模擬授業の実施）
7週目：教材研究および模擬授業Ⅳ（同じ指導案の見直し、改善を試みながらまわり順で受講者全員が模擬授業を行う）
8週目：教材研究および模擬授業Ⅴ（全員が行ったのち、グループ同士で教材を交換して同じように授業構築を試みる）
9週目：教材研究および模擬授業Ⅵ（特に導入部の10分を繰り返し行いながら授業計画全体を構想する）
10週目：教材研究および模擬授業Ⅶ（プレゼン資料等は講義開始までに準備し、始業と同時に模擬授業を開始する）
11週目：教材研究および模擬授業Ⅷ（各自が２つの教材について、2回づつほど授業を行うことを目標とする）
12週目：教材研究および模擬授業Ⅸ
13週目：指導案の作成について
14週目：総括
15週目：レポート提出

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
模擬授業用の資料作成、リハーサル等、本番同様の準備・復習をすること。

教科書

適宜指示する。

参考書

学習指導要領

備考

美術科教育法Ⅳ（77352）

後期

Method of Teaching Fine Art Ⅳ

教職科目

年次	３年
対象	24 ～ 18 N
単位数	２．０単位
担当教員	田丸稔

授業の概要

美術科教育法III同様、中学校の美術科授業構築について実践的なアプローチに基づき研究を試みるが、本講義では特に養護学校・障害児学級および障害者施設における造形指導について、実制作者的視点から実例を基に考察する。

到達目標

1）特殊教育、福祉活動等の現状について調べ理解する。
2）実際現場に赴き、実地研修を行い調査・体験する。

評価方法

受講態度等（２０％）、課題提出（８０％）の割合で評価する。
総合計60点以上を合格とする

注意事項

用具の準備等は逐次学内の掲示板にて告知。連絡の無い場合は、スケッチブックあるいはクロッキー帳、筆記用具等を各自持参のこと。

授業計画

1週目：ガイダンス
2週目：資料鑑賞（前年度のワークショップより）
3週目：養護教育と造形教育
4週目：美術教育と中高学校教育の実際（学習指導要領・教科書等）
5週目：教材研究I
6週目：教材研究II
7週目：教材研究III
8週目：教材研究IV
9週目：ワークショップ１（福祉事業現場での実習）
10週目：ワークショップ１の報告
11週目：ワークショップ２（福祉事業現場での発展的な実習）
12週目：ワークショップ２の報告
13週目：福祉事業のあり方と造形活動の関わり方等の考察
14週目：総括
15週目：ディスカッション（福祉事業のあり方について）とレポート提出

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
障害者施設、老人介護施設等へ訪問して実地研修を行う。その他、準備等 。

教科書

使用しない。

参考書

学習指導要領

備考

理科教育法Ⅲ（77301）

前期

Method of Teaching Science Ⅲ

教職科目

年次	３年
対象	24 ～ 18 B,Y,M
単位数	２．０単位
担当教員	中山広文

授業の概要

中・高校生は心身ともに発達が著しく，知的探究心の高まりとともに，物事をある程度，抽象的に考えたり，論理的・合理的に判断したりしようとする傾向が強くなる時期でもある。また，2016年(小・中学校)，2017年(高等学校)には，次期学習指導要領の改訂告示が行われ，2018年(小・中学校)，2019年(高等学校)の移行期間を経て，2020年(小学校)，2021年(中学校)には全面実施，2022年(高等学校)年次進行で実施の予定である。その主なねらいは，現行の学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で，知識の理解の質を高め，確かな学力を育成しようとするものである。とくに理科教育においては，見通しを持った観察・実験の充実，データ等の収集・分析力，課題解決のための方策の構築など，さらなる理科教育の充実が求められるようになった。このような状況を踏まえ，本授業では，理科教育法I・IIを基礎に，理科教育の見識を深めたい人や中学校，高等学校理科教員を志す学生を対象とし，より実践的な指導力の育成をめざす。具体的には，次年度に控えた教育実習や採用試験を意識した理科教育の意義，教科内容の理解，理科学習指導案の具体的な書き方，また模擬授業等により実践的な授業展開のあり方を体得することを目的とする。

到達目標

１、学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。
１）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
３）当該教科の学習評価の考え方を理解している。
４）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し，教材研究に活用することができる。
５）発展的な学習内容について探究し，学習指導への位置付けを考察することができる。
２、基礎的な学習指導理論を理解し，具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
１）子供の認識・思考，学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
２）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し，授業設計に活用することができる。
３）学習指導案の構成を理解し，具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
４）模擬授業の実施とその振り返りを通して，授業改善の視点を身に付けている。
５）当該教科における実践研究の動向を知り，授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

・講義への取り組み姿勢　　１０％
・課題（学習指導案など）提出とその内容　５０％
・試験（模擬授業を含む）　　４０％
総合計６０点以上を合格とする

注意事項

本授業は，真に理科教師を志す学生のための講座である。自らが教師になったつもりで講義に参加すること。
したがって，授業を受けるマナーや態度等については十分な自覚をもつこと。
授業計画は，学生の教科レベルや授業の進捗状況によりその内容や予定を変更することもある。
この授業を通して，教える喜びやわかる楽しさをより多く経験してもらいたい。
様々なグループワーク（協同学習）を行うので，欠席しないこと。

授業計画

回数	内容
第1回	中学校・高等学校の理科教育の現状
第2回	中学校・高等学校の理科教育課程

回数	内容
第3回	理科教育の目的と目標
第4回	学習指導案の書き方Ⅰ（理論）
第5回	学習指導案の書き方Ⅱ（実践）
第6回	中学校理科の内容とその扱い方Ⅰ（物理分野）
第7回	中学校理科の内容とその扱い方Ⅱ（化学分野）
第8回	中学校理科の内容とその扱い方Ⅲ（生物分野）
第9回	中学校理科の内容とその扱い方Ⅳ（地学分野）
第10回	高等学校理科の内容とその扱い方Ⅰ（科学と人間生活）
第11回	高等学校理科の内容とその扱い方Ⅱ（化学基礎・化学）
第12回	高等学校理科の内容とその扱い方Ⅲ（生物基礎・生物）
第13回	理科における実験・観察（安全管理）
第14回	理科におけるICT教育
第15回	理科における協同学習

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

・新聞やインターネット等で理科教育に関連する項目には，アンテナを常に高くしておくこと。
・授業後見直しを行い，より学習を確かなものにしておくこと。
・学習指導案等の作成，提出は期限を厳守すること。

教科書

プリントを配布する。

参考書

中学校理科教科書　東京書籍　「新しい科学１～３年」等
高等学校科学と人間生活教科書　数研出版　「新　科学と人間生活」等
高等学校化学教科書　数研出版　「化学基礎」・「化学」等
高等学校生物教科書　数研出版　「生物基礎」・「生物」等
文科省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）理科編・理数編」「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）理科編」
授業に活かす理科教育法　佐巻健男編著　東京書籍

備考

理科教育法Ⅳ（77353）

後期

Method of Teaching Science Ⅳ

教職科目

年次	３年
対象	24 ～ 18 B,Y,M
単位数	２．０単位
担当教員	中山広文

授業の概要

中・高校生は心身ともに発達が著しく，知的探究心の高まりとともに，物事をある程度，抽象的に考えたり，論理的・合理的に判断したりしようとする傾向が強くなる時期でもある。また，2016年(小・中学校)，2017年(高等学校)には，次期学習指導要領の改訂告示が行われ，2018年(小・中学校)，2019年(高等学校)の移行期間を経て，2020年(小学校)，2021年(中学校)には全面実施，2022年(高等学校)年次進行で実施の予定である。その主なねらいは，現行の学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で，知識の理解の質を高め，確かな学力を育成しようとするものである。とくに理科教育においては，見通しを持った観察・実験の充実，データ等の収集・分析力，課題解決のための方策の構築など，さらなる理科教育の充実が求められるようになった。このような状況を踏まえ，本授業では，理科教育法I・II・IIIを基礎に，理科教育の見識を深めたい人や中学校，高等学校理科教員を志す学生を対象とし，次年度の教育実習の成功をめざして，より実践的な指導力を高めることを目的とする。

具体的には，理想的な授業展開のための教材研究，授業設計，学習指導案の作成，授業展開の技術などについて学生一人一人に実践してもらう。

そして，倉敷芸科大の学生として，教壇で素晴らしい個性的な授業展開ができることをめざす。

到達目標

１，学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

１）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。

２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。

３）当該教科の学習評価の考え方を理解している。

４）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し，教材研究に活用することができる。

５）発展的な学習内容について探究し，学習指導への位置付けを考察することができる。

２，基礎的な学習指導理論を理解し，具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

１）子供の認識・思考，学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。

２）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し，授業設計に活用することができる。

３）学習指導案の構成を理解し，具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。

４）模擬授業の実施とその振り返りを通して，授業改善の視点を身に付けている。

５）当該教科における実践研究の動向を知り，授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

・講義への取り組み姿勢　　１０％

・課題（学習指導案など）提出とその内容　５０％

・試験（模擬授業を含む）　　４０％

総合計60点以上を合格とする

注意事項

本授業は，真に理科教師を志す学生のための講座である。自らが教師になったつもりで講義に参加すること。

したがって，授業を受けるマナーや態度等については十分な自覚をもつこと。

授業計画は，学生の教科レベルや授業の進捗状況によりその内容や予定を変更することもある。

この授業を通して，教える喜びやわかる楽しさをより多く経験してもらいたい。

様々なグループワーク（協同学習）を行うので，欠席しないこと。

授業計画

回数	内容
第1回	形成的評価と総括的評価ー評価問題等の作成

回数	内容
第2回	中学校理科模擬授業Ⅰ（物理分野・準備）ー教材研究、学習指導案の作成、授業展開の設計等について考察
第3回	中学校理科模擬授業Ⅱ（物理分野・実際）ー模擬授業の実施と評価
第4回	中学校理科模擬授業Ⅲ（化学分野・準備）ー教材研究、学習指導案の作成、授業展開の設計等について考察
第5回	中学校理科模擬授業Ⅳ（化学分野・実際）ー模擬授業の実施と評価
第6回	中学校理科模擬授業Ⅴ（生物分野・準備）ー教材研究、学習指導案の作成、授業展開の設計等について考察
第7回	中学校理科模擬授業Ⅵ（生物分野・実際）ー模擬授業の実施と評価
第8回	中学校理科模擬授業Ⅶ（地学分野・準備）ー教材研究、学習指導案の作成、授業展開の設計等について考察
第9回	中学校理科模擬授業Ⅷ（地学分野・実際）ー模擬授業の実施と評価
第10回	高等学校理科模擬授業Ⅰ（準備）ー教材研究、学習指導案の作成、授業展開の設計等について考察 ※学習項目については、別途指示
第11回	高等学校理科模擬授業Ⅱ（実際）ー模擬授業の実施と評価 ※学習項目については、別途指示
第12回	高等学校理科模擬授業Ⅲ（準備）ー教材研究、学習指導案の作成、授業展開の設計等について考察 ※学習項目については、別途指示
第13回	高等学校理科模擬授業Ⅳ（実際）ー模擬授業の実施と評価 ※学習項目については、別途指示
第14回	高等学校理科模擬授業Ⅴ（準備）ー教材研究、学習指導案の作成、授業展開の設計等について考察 ※学習項目については、別途指示
第15回	高等学校理科模擬授業Ⅵ（実際）ー模擬授業の実施と評価 ※学習項目については、別途指示

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

・新聞やインターネット等で理科教育に関連する項目には，アンテナを常に高くしておくこと。
・授業後見直しを行い，より学習を確かなものにしておくこと。
・学習指導案等の作成，提出は期限を厳守すること。

教科書

プリントを配布する。

参考書

「中学校理科教科書・東京書籍・新しい科学１・２・３年」
「高等学校教科書・ 数研出版・科学と人間生活」「高等学校教科書・数研出版・物理基礎・物理」「高等学校教科書・数研出版・化学基礎・化学」「高等学校教科書・数研出版・生物基礎・生物」「高等学校教科書・数研出版・地学基礎・地学」
「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）理科編・高等学校学習指導要領解説（平成30年告示） 理科編・理数編」（文科省ネットサイトからダウンロードも可能）
「授業に活かす理科教育法・佐巻健男編著・東京書籍」

備考

保健科教育法Ⅰ（77101）

前期

Teaching Methods of Health Education, I

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 17 W,W
単位数	２．０単位
担当教員	飯田智行

授業の概要

本講義は、中学校・高等学校「保健」の教員を目指す学生を対象として開講するものです。保健科教育法Iでは、中学校・高等学校の「保健」を学ぶにあたって学校における保健（健康）教育の意味・意義について理解し、子どもたちの科学的認識と実践的能力をどのように育成していくか学習することを目的とします。内容としては、学習指導要領に沿って各論的に講述します。

到達目標

・「保健」を担当する者として必要な授業観を身に付ける。
・「保健」の内容及び指導方法に関する基本的な事項を理解し、保健授業に対する自らの科学的認識と実践的能力を高める。

評価方法

授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）および定期試験（70%）により評価する。
合計点60点以上を合格とする

注意事項

教員免許取得を強く希望する学生の履修を望みます。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	保健（健康）教育の変遷
第3回	学校における保健（健康）教育の目標と意義
第4回	保健と体育、学習指導要領総則、他教科、特別活動などとの関連
第5回	わが国の健康のすがたとその考え方（１）理論
第6回	わが国の健康のすがたとその考え方（２）授業づくりの考え方
第7回	飲酒と健康（１）理論
第8回	飲酒と健康（２）授業づくりの考え方
第9回	喫煙と健康（１）理論
第10回	喫煙と健康（２）授業づくりの考え方
第11回	薬物乱用と健康（１）理論
第12回	薬物乱用と健康（２）授業づくりの考え方
第13回	感染症・エイズとその予防（１）理論
第14回	感染症・エイズとその予防（２）授業づくりの考え方
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

毎回の授業で、次回の授業内容を伝えるので、該当の教科書の範囲を読んでおくこと。
また、毎回の授業で前回の内容の小テストを実施するため、復習をしておくこと。

教科書

文部科学省 中学校学習指導要領解説-保健体育編-（東山書房）
文部科学省 高等学校学習指導要領解説-保健体育編-（東山書房）

参考書

授業中に随時紹介します。

備考

保健科教育法Ⅱ（77152）

後期

Teaching Methods of Health Education, Ⅱ

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 18 W,W
単位数	２．０単位
担当教員	飯田智行

授業の概要

本講義は、中学校・高等学校「保健」の教員を目指す学生を対象として開講するものです。保健科教育法IIでは、保健科教育法Iに引き続き、中学校・高等学校の「保健」を学ぶにあたって学校における保健（健康）教育の意味・意義について理解し、子どもたちの科学的認識と実践的能力をどのように育成していくか学習することを目的とします。内容としては、学習指導要領に沿って各論的に講述するとともに、評価方法、実際の指導計画についても触れることとします。また、簡単な模擬授業も実施し、授業づくりの理解を深めていきます。

到達目標

・「保健」を担当する者として必要な授業観を身に付ける。
・「保健」の内容及び指導方法に関する基本的な事項を理解し、保健授業に対する自らの科学的認識と実践的能力をより高める。

評価方法

授業に取り組む姿勢・小テスト（20%）、模擬授業（20%）、定期試験（60%）により評価する。

注意事項

教員免許取得を強く希望する学生の履修を望みます。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	生活習慣病と日常の生活行動（１）理論
第3回	生活習慣病と日常の生活行動（２）授業づくりの考え方
第4回	心身機能の発達と心の健康（１）理論
第5回	心身機能の発達と心の健康（２）授業づくりの考え方
第6回	性を考える（１）理論
第7回	性を考える（２）授業づくりの考え方
第8回	保健の評価の考え方とその工夫
第9回	保健の指導計画
第10回	保健における教材作成（情報機器の活用を含む）
第11回	指導案作成
第12回	喫煙と健康の実践
第13回	飲酒と健康の実践
第14回	生活習慣病と日常の生活行動の実践
第15回	まとめ

授業外学習

毎回の授業で、次回の授業内容を伝えるので、該当の教科書の範囲を読んでおくこと。

また、毎回の授業で前回の内容の小テストを実施するため、復習をしておくこと。
さらに、授業の後半は模擬授業を行うため、指導案や配布資料の作成などの授業準備をしておくこと。

教科書

文部科学省 中学校学習指導要領解説-保健体育編-（東山書房）
文部科学省 高等学校学習指導要領解説-保健体育編-（東山書房）

参考書

授業中に随時紹介します。

備考

保健科教育法Ⅲ（77402）

前期

Teaching Methods of Health Education, Ⅲ

教職科目

年次	３年
対象	24 ～ 18 W,W
単位数	２．０単位
担当教員	林聡太郎

授業の概要

保健科教育法Ⅰ・Ⅱで学んだ知識と授業技術について実践的な場で活用できることを目指します。1名もしくは2名で選定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業の実践をします。実践者と生徒役の他の履修生からのリフレクションにより模擬授業の振り返りを行います。

到達目標

（１）目標及び内容

一般目標：学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

到達目標：

１）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
３）当該教科の学習評価の考え方を理解している。
４）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
５）発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

（２）当該教科の指導方法と授業設計

一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

到達目標：

１）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
２）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
３）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
４）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
５）当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

学習指導案作成と模擬授業の実践（80%）、模擬授業のリフレクション用紙（20%）

総合計60点以上を合格とする

注意事項

保健科教育法Ⅰ・Ⅱを修得済で教育実習を履修予定の学生を対象とする。

授業計画

回数	内容
第1回	保健科の授業づくり(1)（学習指導要領における保健科の位置づけについて）
第2回	保健科の授業づくり(2)（専門科目での科学的知識を用いた保健科教材について）
第3回	保健科の授業づくり(3)（模擬授業実践例から学ぶ学習指導案の書き方と教材研究について）
第4回	保健科模擬授業実践(1)（現代社会と健康／2名もしくは2グループ）
第5回	保健科模擬授業実践(2)（生涯を通じる健康／2名もしくは2グループ）
第6回	保健科模擬授業実践(3)（社会生活と健康／2名もしくは2グループ）
第7回	模擬授業実践(1)～(3)の振り返り
第8回	保健科模擬授業実践(5)（中学校保健編と高等学校「現代社会と健康」を関連づけて／2名もしくは2グループ）

回数	内容
第9回	保健科模擬授業実践(6)（中学校保健編と高等学校「生涯を通じる健康」を関連づけて／2名もしくは2グループ）
第10回	保健科模擬授業実践(7)（中学校保健編と高等学校「社会生活と健康」を関連づけて／2名もしくは2グループ）
第11回	模擬授業実践(5)～(7)の振り返り
第12回	体育理論の授業づくり（学習指導要領における体育理論の位置づけについて）
第13回	体育編模擬授業(1)（運動・スポーツの文化的特徴／2名もしくは2グループでパワーポイントを用いて）
第14回	体育編模擬授業(2)（運動・スポーツの学び方／2名もしくは2グループでパワーポイントを用いて）
第15回	体育編模擬授業(3)（豊かなスポーツライフの設計／1名もしくは1グループでパワーポイントを用いて）・保健科教育法Ⅲのまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

学習指導案の作成に必要な情報を得るため、学内の図書館を利用する、新聞を読むなどして教材収集を積極的に行いましょう。

教科書

新・中学校保健体育（平成29年1月 学習研究社）（保体728） 978-4904811207

現代高等保健体育 改訂版［平成29年度改訂］高校用 文部科学省検定済教科書［50大修館/保体304］978-4469662764

参考書

学校保健ハンドブック（第７改定 ぎょうせい）

学校保健の動向（平成30年度版 日本学校保健会）

備考

保健科教育法Ⅳ（77609）

後期

Teaching Methods of Health Education, Ⅳ

教職科目

年次	３年
対象	24 ～ 22 W,W
単位数	２．０単位
担当教員	林聡太郎

授業の概要

保健科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの応用として、前後半に分けて授業内容を展開します。前半では、学習指導要領、中学校保健分野・高等学校「保健」の重要なポイントについて振り返りを行います。後半では、保健科教育法Ⅲで実施されなかった単元あるいは実習先で行うであろう単元をとりあげ、これまで学んだ知識を活かした学習指導案の作成と実践・振り返りを行い、教育実習に向けた態度と知識の定着を目指します。

到達目標

授業の到達目標及びテーマ

（１）目標及び内容

一般目標：学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

到達目標：

１）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。

２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。

３）当該教科の学習評価の考え方を理解している。

４）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。

５）発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

（２）当該教科の指導方法と授業設計

一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

到達目標：

１）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。

２）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。

３）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。

４）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

５）当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

保健科教育法Ⅰ・Ⅱの振り返りテスト（50%）、学習指導案作成と模擬授業の実践（50%）

総合計60点以上を合格とする

注意事項

保健科教育法Ⅰ・Ⅱを修得し、次年度、教育実習を履修する人を対象とします。

授業計画

回数	内容
第1回	保健科教育法Ⅳの進め方について（オリエンテーション）
第2回	保健科教育法Ⅰ・Ⅱの振り返り(1) 学習指導要領
第3回	保健科教育法Ⅰ・Ⅱの振り返り(2) 心神の機能の発達と心の健康
第4回	保健科教育法Ⅰ・Ⅱの振り返り(3) 健康と環境
第5回	保健科教育法Ⅰ・Ⅱの振り返り(4) 傷害の防止
第6回	保健科教育法Ⅰ・Ⅱの振り返り(5) 健康な生活と疾病の予防

回数	内容
第7回	保健科教育法Ⅰ・Ⅱの振り返り(6) 現代社会と健康
第8回	保健科教育法Ⅰ・Ⅱの振り返り(7) 生涯を通じる健康
第9回	保健科教育法Ⅰ・Ⅱの振り返り(8) 社会生活と健康
第10回	総合演習(1) 総合演習の進め方・学習指導案の作成
第11回	総合演習(2) 模擬授業の実践・振り返り（現代社会と健康）
第12回	総合演習(3) 模擬授業の実践・振り返り（生涯を通じる健康）
第13回	総合演習(4) 模擬授業の実践・振り返り（社会生活と健康）
第14回	総合演習(5) 模擬授業の実践・振り返り（体育理論）
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

授業時に開設した内容は、確認テストで定着を確認します。配布した問題を各自で予習すると共に、復習を積み重ねておくこと。日頃から新聞等を通して時事ニュースに目を向けておくこと。積み重ねの授業外学習が、模擬授業の導入部分や小論文を書く際に必ず役に立ちます。

教科書

中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成20年9月 文部科学省）978-4827815603

高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（平成21年12月 文部科学省）978-4827815689

新・中学校保健体育（平成29年1月 学習研究社）978-4904811207

現代保健体育 改訂版（平成29年4月1日 大修館書店）978-4469662764

参考書

学校保健ハンドブック（第７改定 ぎょうせい）

学校保健の動向（平成30年度版 日本学校保健会）

備考

保健体育科教育法Ⅰ（77103）

前期

Teaching Methods of Health and Physical Education, Ⅰ

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 18 W,W
単位数	２．０単位
担当教員	飯田智行

授業の概要

本講義は、中学校・高等学校「保健体育」の教員を目指す学生を対象として開講するものです。保健体育科教育法Iでは、小学校から高等学校まで必須教科としてすべての子どもたちに課せられている体育・保健体育の意味・意義について理解し、子どもに身体活動（運動・スポーツ）の必要性の理解と実践力をどのように育成していくかについての理論を学習します。内容としては、学習指導要領に沿って各論的に講述します。

到達目標

・「体育」を担当する者として必要な授業観を身に付ける。
・「体育」の内容及び指導方法に関する基本的な事項を理解し、体育授業に対する自らの科学的認識と実践的能力を高める。

評価方法

授業に取り組む姿勢・小テスト（３０％）および定期試験（７０％）により評価する。
総合計60点以上を合格とする

注意事項

教員免許取得を強く希望する学生の履修を望みます。
保健体育科教育法Ⅰを履修した学生を望みます。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	体育教育の変遷
第3回	学校における体育教育の目標と意義
第4回	体育と保健、学習指導要領総則、他教科、特別活動などとの関連
第5回	体つくり運動（１）理論
第6回	体つくり運動（２）授業づくりの考え方
第7回	器械運動（１）理論
第8回	器械運動（２）授業づくりの考え方
第9回	陸上競技（１）理論
第10回	陸上競技（２）授業づくりの考え方
第11回	水泳（１）理論
第12回	水泳（２）授業づくりの考え方
第13回	球技（１）理論
第14回	球技（２）授業づくりの考え方
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
毎回の授業で、次回の授業内容を伝えるので、該当の教科書の範囲を読んでおくこと。
また、毎回の授業で前回の内容の小テストを実施するため、復習をしておくこと。

教科書

文部科学省 中学校学習指導要領解説-保健体育編-（東山書房）
文部科学省 高等学校学習指導要領解説-保健体育編-（東山書房）

参考書

授業中に随時紹介します。

備考

保健体育科教育法Ⅱ（77153）

後期

Teaching Methods of Health and Physical Education, Ⅱ

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 18 W,W
単位数	２．０単位
担当教員	飯田智行

授業の概要

本講義は、中学校・高等学校「保健体育」の教員を目指す学生を対象として開講するものです。保健体育科教育法IIでは、保健体育科教育法Iに引き続き、小学校から高等学校まで必須教科としてすべての子どもたちに課せられている体育・保健体育の意味・意義について理解し、子どもに身体活動（運動・スポーツ）の必要性の理解と実践力をどのように育成していくかについて学習します。内容としては、学習指導要領に沿って各論的に講述するとともに安全指導、評価方法、実際の指導計画についても触れることとします。また、簡単な模擬授業も実施し、授業づくりの理解を深めていきます。

到達目標

・「体育」を担当する者として必要な授業観を身に付ける。
・「体育」の内容及び指導方法に関する基本的な事項を理解し、体育授業に対する自らの科学的認識と実践的能力をより高める。

評価方法

授業に取り組む姿勢・小テスト（20%）、模擬授業（20%）および定期試験（60%）により評価する。
総合計60点以上を合格とする

注意事項

教員免許取得を強く希望する学生の履修を望みます。
保健体育科教育法Ⅰを履修した学生を望みます。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	武道（１）理論
第3回	武道（２）授業づくりの考え方
第4回	ダンス（１）理論
第5回	ダンス（２）授業づくりの考え方
第6回	体育理論
第7回	体育授業における事故判例と安全指導
第8回	体育の評価の考え方とその工夫
第9回	体育の指導計画
第10回	体育における情報機器の活用
第11回	指導案の作成
第12回	体つくり運動の実践
第13回	陸上競技の実践
第14回	球技の実践
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
毎回の授業で、次回の授業内容を伝えるので、該当の教科書の範囲を読んでおくこと。
また、毎回の授業で前回の内容の小テストを実施するため、復習をしておくこと。
さらに、授業の後半は模擬授業を行うため、指導案や配布物の作成などの授業準備をしておくこと。

教科書

文部科学省 中学校学習指導要領解説-保健体育編-（東山書房）
文部科学省 高等学校学習指導要領解説-保健体育編-（東山書房）

参考書

授業中に随時紹介します。

備考

保健体育科教育法Ⅲ（77305）

前期

Teaching Methods of Health and Physical Education, Ⅲ

教職科目

年次	３年
対象	24 ～ 18 W,W
単位数	２．０単位
担当教員	大家一

授業の概要

保健体育科教育法IIIでは、保健体育科教育法I・IIで学んだ知識と授業技術について、実践的な場で活用することができることを目指します。具体的な内容としては、与えられた単元について数名のグループで指導計画(単元計画と単元時間計画)を作成し、体育の模擬授業を実施することを中心に行います。

到達目標

１、学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。
１）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
３）当該教科の学習評価の考え方を理解している。
４）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
５）発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。
２、基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。１）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
２）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用する
ことができる。
３）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成すること
ができる。
４）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
５）当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（３０％）、指導案の内容（３０％）、模擬授業の内容（４０％）により総合的に評価します。
総合計60点以上を合格とする

注意事項

特になし

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、模擬授業の班編成
第2回	指導計画作成方法の確認と実施（単元計画）
第3回	指導計画作成方法の確認と実施（単位時間計画）
第4回	模擬授業（１）ソフトボール　実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第5回	模擬授業（２）サッカー　実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第6回	模擬授業（３）ハンドボール　実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第7回	模擬授業（４）陸上競技　実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第8回	模擬授業（５）バレーボール　実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第9回	模擬授業（６）バスケットボール 実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価

回数	内容
第10回	模擬授業（７）体つくり運動、器械運動 実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第11回	模擬授業（８）ダンス　　実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第12回	模擬授業（９）卓球　　実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第13回	模擬授業（１０）バドミントン　実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第14回	模擬授業（１１）バドミントン　実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第15回	総合まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

指導計画を立てる際に必要な情報をえるため、学内外の図書館などを利用し、資料の収集を積極的に行うこと。
模擬授業後、反省を生かした指導計画案を作成し提出する。
総合計60点以上を合格とする

教科書

文部科学省 中学校学習指導要領解説―保健体育編―（東山書房）、文部科学省 高等学校学習指導要領解説―保健体育編―（東山書房）
アクティブスポーツ（総合版）2020（大修館書店）ISBN9784469365658

参考書

授業中に随時紹介します。

備考

保健体育科教育法Ⅳ（77154）

後期

Teaching Methods of Health and Physical Education, Ⅳ

教職科目

年次	３年
対象	24 ～ 18 W,W
単位数	２．０単位
担当教員	大家一

授業の概要

保健体育科教育法Ⅳでは、保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの応用として、教員採用試験における中学校・高等学校の「体育」の取り扱い方について知り、実際の問題を解くとともに解説を行います。

到達目標

１、学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。
１）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
３）当該教科の学習評価の考え方を理解している。
４）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
５）発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。
２、基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。１）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
２）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
３）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
４）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
５）当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

授業への取り組む姿勢（４０％）、小テスト（６０％）により総合的に判定します。
総合計60点以上を合格とする

注意事項

特になし

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	学習指導要領
第3回	体つくり運動、器械運動
第4回	陸上競技、水泳
第5回	球技（バレーボール、サッカー）
第6回	球技（バスケットボール、ハンドボール）
第7回	球技（テニス、卓球、バドミントン）
第8回	球技（ソフトボール）
第9回	武道、ダンス
第10回	総合演習（１）集団行動

回数	内容
第11回	総合演習（２）球技：バスケットボール、バレーボール、ハンドボール
第12回	総合演習（３）球技：卓球、バドミントン、テニス
第13回	総合演習（４）体つくり運動、器械運動、ダンス
第14回	総合演習（5）球技：サッカー、ソフトボール
第15回	総合まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

各競技種目についてカラーワイドスポーツなどを参考に基本技術、歴史、ルール、審判法などを予習すること。
各回の授業時に小テストを実施します。前回の授業についてよく復習しておくこと。

教科書

文部科学省 中学校学習指導要領解説ー保健体育編ー（東山書房）、文部科学省 高等学校学習指導要領解説ー保健体育編ー（東山書房） 中学保健体育（学研）、現代高等保健体育（大修館書店）、アクティブスポーツ総合版2019（大修館書店）、（ただし、保健科教育法I・II・III、保健体育科教育法I・II・IIIを履修し、これらを持っている者は購入の必要はありません。）

参考書

授業中に随時紹介します。

備考

教育の方法と技術（77251）

後期

Educational Technology

教職科目

年次	１年
対象	26 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	小山悦司

授業の概要

本科目は、教育工学の観点から、教育（視聴覚）メディアの意義と学習支援の方法についての理解を深めるとともに、各種の情報機器や視聴覚教材を活用する能力や、メディア･リテラシーの育成をめざす。また、教育方法学的な観点から、何のために、何を、どのようにして教えるかという学習指導の基礎理論を踏まえて、効果的な指導技術について実践的に修得することをねらいとしている。
本科目は、教育職員免許状の取得に必修とされる「教職に関する科目」である。
【アクティブ･ラーニング】プレゼンテーションとグループ・ワークを取り入れている。
【ＩＣＴを活用した双方向型授業】本授業では、クリッカーを活用して教員と学生の相互コミュニケーションを図る試みを実践する。クリッカーとは応答用リモコンのことで、ボタンを押すことにより簡単なテストやアンケートをリアルタイムで集計できることが特長とされている。

到達目標

１．教育の方法論
1）教育方法の基礎的理論と実践を理解している。
2）これからの社会を担う生徒に求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。
3）学級・生徒・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的な要件を理解している。
4）学習評価の基礎的な考え方を理解している。

２．教育の技術
1）話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付けている。
2）基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容､教材・教具､授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。

３．情報機器及び教材の活用
1）生徒の興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。
2）生徒の情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20%（到達目標1・2・3を評価）、課題レポートⅠ10%（到達目標1を評価）、課題レポートⅡ10%（到達目標2を評価）、課題レポートⅢ10%（到達目標3を評価）、プレゼンテーション10%（到達目標3を評価）、定期試験40%（到達目標1・2・3を評価）に基づいて成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

教育職員免許状を取得するための必修科目である。免許科目として、授業の水準を維持する必要があるので、教員を目指そうとする目的意識を持って履修すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	教育方法の基礎的理論：教育工学の定義と領域

回数	内容
第3回	教育効果の高い指導法とは：主体的・対話的で深い学びに関するワーク（グループワークの実施）
第4回	行動科学を適用したこれからの教育方法：学級・生徒・教員・教室・教材などのシステム化
第5回	行動科学を適用したこれからの学校建築
第6回	教育(視聴覚）メディアの種類と特徴
第7回	教育(視聴覚）メディアの活用による学習支援の方法（クリッカーの使用）
第8回	教育(視聴覚）メディアの具体的活用方法：インストラクショナル・デザインに基づく活用
第9回	教育(視聴覚）メディアの具体的活用方法：カリキュラム構成理論に基づく活用
第10回	効果的な学習指導のポイント（1）：基礎的な学習指導理論
第11回	効果的な学習指導のポイント（2）：話法・板書などの基礎的技能
第12回	効果的な学習指導のポイント（3）：学習評価の視点を含めた学習指導案の作成
第13回	教育(視聴覚）メディアおよび教材を効果的に活用した学習指導のあり方（プレゼンテーションの実施）
第14回	教育の方法と技術のまとめ（1）： メディア・リテラシー（情報モラルを含む）の育成に向けて
第15回	教育の方法と技術のまとめ（2）：総括

授業外学習

授業開始時に小テストを実施するので、前回の授業についてよく復習しておくこと。また、プレゼンテーションも実施するので、事前準備が必要となる。
なお、課題レポート１・Ⅱ・Ⅲに関する具体的なテーマや作成のポイントについては、授業中に詳しく説明する。
以上の活動や準備等に、合計して６０時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

使用しない。「中学校学習指導要領」、「高等学校学習指導要領解説（総則編）」に関する資料などを適宜配布する。

参考書

授業中に適宜指示する。

備考

教育の方法と技術（77551）

後期

Educational Technology

教職科目

年次	１年
対象	26 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	小山悦司

授業の概要

本科目は、教育工学の観点から、教育（視聴覚）メディアの意義と学習支援の方法についての理解を深めるとともに、各種の情報機器や視聴覚教材を活用する能力や、メディア･リテラシーの育成をめざす。また、教育方法学的な観点から、何のために、何を、どのようにして教えるかという学習指導の基礎理論を踏まえて、効果的な指導技術について実践的に修得することをねらいとしている。
本科目は、教育職員免許状の取得に必修とされる「教職に関する科目」である。
【アクティブ･ラーニング】プレゼンテーションとグループ・ワークを取り入れている。
【ＩＣＴを活用した双方向型授業】本授業では、クリッカーを活用して教員と学生の相互コミュニケーションを図る試みを実践する。クリッカーとは応答用リモコンのことで、ボタンを押すことにより簡単なテストやアンケートをリアルタイムで集計できることが特長とされている。

到達目標

１．教育の方法論
1）教育方法の基礎的理論と実践を理解している。
2）これからの社会を担う生徒に求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。
3）学級・生徒・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的な要件を理解している。
4）学習評価の基礎的な考え方を理解している。

２．教育の技術
1）話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付けている。
2）基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容､教材・教具､授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。

３．情報機器及び教材の活用
1）生徒の興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。
2）生徒の情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20%（到達目標1・2・3を評価）、課題レポートⅠ10%（到達目標1を評価）、課題レポートⅡ10%（到達目標2を評価）、課題レポートⅢ10%（到達目標3を評価）、プレゼンテーション10%（到達目標3を評価）、定期試験40%（到達目標1・2・3を評価）に基づいて成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

教育職員免許状を取得するための必修科目である。免許科目として、授業の水準を維持する必要があるので、教員を目指そうとする目的意識を持って履修すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	教育方法の基礎的理論：教育工学の定義と領域

回数	内容
第3回	教育効果の高い指導法とは：主体的・対話的で深い学びに関するワーク（グループワークの実施）
第4回	行動科学を適用したこれからの教育方法：学級・生徒・教員・教室・教材などのシステム化
第5回	行動科学を適用したこれからの学校建築
第6回	教育(視聴覚）メディアの種類と特徴
第7回	教育(視聴覚）メディアの活用による学習支援の方法（クリッカーの使用）
第8回	教育(視聴覚）メディアの具体的活用方法：インストラクショナル・デザインに基づく活用
第9回	教育(視聴覚）メディアの具体的活用方法：カリキュラム構成理論に基づく活用
第10回	効果的な学習指導のポイント（1）：基礎的な学習指導理論
第11回	効果的な学習指導のポイント（2）：話法・板書などの基礎的技能
第12回	効果的な学習指導のポイント（3）：学習評価の視点を含めた学習指導案の作成
第13回	教育(視聴覚）メディアおよび教材を効果的に活用した学習指導のあり方（プレゼンテーションの実施）
第14回	教育の方法と技術のまとめ（1）： メディア・リテラシー（情報モラルを含む）の育成に向けて
第15回	教育の方法と技術のまとめ（2）：総括

授業外学習

授業開始時に小テストを実施するので、前回の授業についてよく復習しておくこと。また、プレゼンテーションも実施するので、事前準備が必要となる。
なお、課題レポート１・Ⅱ・Ⅲに関する具体的なテーマや作成のポイントについては、授業中に詳しく説明する。
以上の活動や準備等に、合計して６０時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

使用しない。「中学校学習指導要領」、「高等学校学習指導要領解説（総則編）」に関する資料などを適宜配布する。

参考書

授業中に適宜指示する。

備考

教職論（77151）

後期

Introduction to　Teaching Profession

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	小山悦司 赤木恒雄 唐川千秋

授業の概要

教師を志望する学生に「教職とは何か、教師に求められる力量とは何か」について深く考察させ、教職への一体感を形成することをねらいとしている。
具体的には、(1)望ましい教師像、(2)教師に求められる力量、(3)養成→採用→研修のプロセスを通じての力量形成のあり方、(4)教育関連法令に基づいた教師の身分と服務、(5)教師としての自己理解と生徒理解、（6）チーム学校への対応を中心に論ずる。

【アクティブラーニング】一部のトピックでグループワークを行う
【フィードバック】課題レポートに対する講評を行う

到達目標

１．教職の意義
1）公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。
2）進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。

２．教員の役割
1）教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。
2）今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。

３．教員の職務内容
1）生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。
2）教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。
3）教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。

４．チーム学校への対応
1）校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。

評価方法

小テストまたは小レポート30%（到達目標1・2・3・4を評価）、課題レポート30%（到達目標1・2・3・4を評価）、定期試験40%（到達目標1・2・3・4を評価）に基づいて成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

教育実習へ参加することを前提とした授業であるので、教職に対する理解と意欲的な態度や姿勢が求められる。安易な気持ちで受講しないこと。

授業計画

回数	内容
第1回	教職の意義 – オリエンテーション –（唐川・小山・赤木）
第2回	望ましい教師像（小山）
第3回	教師に求められる力量（小山）

回数	内容
第4回	教師の研修と力量形成（小山） ※課題レポートI：これからの教師に求められる資質や能力を示し、あなたの描く教師像を述べなさい。
第5回	教師の職務１（赤木）
第6回	教師の職務２（赤木）
第7回	教師の身分（赤木）
第8回	教師に求められる服務と任用（赤木） ※課題レポートII：教員の政治的行為の制限について、「教育者」としての立場から、「公務員」としての立場からそれぞれ述べなさい。
第9回	教師としての自己理解１（唐川）
第10回	教師としての自己理解２（唐川）
第11回	問題行動に対する認知と対処１（唐川）
第12回	問題行動に対する認知と対処２（唐川） ※課題レポートIII：クラス内での「いじめ」が原因とみられる不登校の児童・生徒がいる。教員としてどのような対応が必要か。あなたの考えを述べなさい。
第13回	教職生涯にわたる職能成長の必要性（小山）
第14回	めざせ教師への道―進路選択への指針―（小山）
第15回	レポート講評・総復習・まとめ （唐川・赤木・小山）

授業外学習

予習：教科書の該当ページおよび参考資料を読み、概要を把握しておく。

復習：授業開始時に定期的に小テストまたは小レポートを実施するので、前回の授業についてよく整理・理解しておく。

課題レポートの作成に関する具体的な内容や方法については、授業中に詳しく説明する。

教師としての資質を向上させるよう、日頃から知識の獲得のみならず、教育観の形成など力量形成に努める。

以上の活動や準備等に、合計して６０時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

赤星晋作（編著）『新教職概論』学文社、2019年 ISBN-978-4-7620-2847-2

参考書

授業中に適宜資料を配布する。

備考

教職実践演習（77351）

後期

Practical Seminar for the Teaching

教職科目

年次	４年
対象	23 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	唐川千秋 赤木恒雄 小山悦司

授業の概要

必要に応じて小グループで活動する演習形式の授業である。履修カルテを有効に活用し、模擬授業・ロールプレーイング・事例研究等を通して、不足している知識や技能等を補うことにより、教員に求められる資質能力をより一層向上させる。なお、履修カルテは、「教職科目の履修状況」「履修者の傾向・特徴」「総合的な評価」を担当教員が、「自己評価シート」「ルーブリック」を学生がそれぞれ記入し、教職課程運営委員会の議を経てカルテの運用と管理を行う。倉敷市立連島中学校・連島南中学校において実施する学校現場の見学・調査（3回分）で公立中学校の見学・調査を行うことで、私立高等学校を中心に実施される教育実習を補完することが可能となる。

【アクティブラーニング】ロールプレー、グループ・ディスカッション、模擬授業に重点を置いた構成としている。
【フィードバック】グループ討論の発表、ロールプレー、模擬授業、課題レポート等に対する講評を行う。

到達目標

（1）これまでの教職課程の履修履歴を踏まえて、学修成果が十分に身についている領域、不十分な領域を明確にして今後の自己研鑽計画を立て、教員として必要な知識技能を修得する。
（2）教員としての使命感や責任感、教育的愛情等をもって、学級や教科を担当しつつ、学習指導、生徒指導等の職務を実践できるようになる。

評価方法

毎時間の活動状況と履修カルテに基づいて、教員に求められる資質能力の向上を総合的に判断して評価する。
定期試験は実施せず、総合レポートの提出を求める。
評価の比率は、毎時間の討論・ロールプレーイングなどの活動状況（40%）（到達目標1・2）、履修カルテ（40%）（到達目標1）、総合レポート（20%）（到達目標2）を基準とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の申請に必須な科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。
小グループで活動する演習形式の授業であるため、討論、ロールプレー等の活動に積極的に、真摯な姿勢で臨むこと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（授業の概要説明、学修の振り返り、履修カルテ作成、小グループ決定）（小山・赤木・唐川）
第2回	教職の意義と教員の役割について（1）講話・グループ討論・ロールプレーイング（小山・赤木・唐川）
第3回	教職の意義と教員の役割について（2）グループ討論・ロールプレーイングの続きとまとめ（小山・赤木・唐川） 【課題】教職の意義と教員の役割について、グループ単位でまとめる。
第4回	子どもに対する責任等について（1）講話・グループ討論・ロールプレーイング（小山・赤木・唐川）
第5回	子どもに対する責任等について（2）グループ討論・ロールプレーイングの続きとまとめ（小山・赤木・唐川） 【課題】子どもに対する責任等について、グループ単位でまとめる。
第6回	社会性や対人関係能力について（1）講話・グループ討論・ロールプレーイング（小山・赤木・唐川）
第7回	社会性や対人関係能力について（2）グループ討論・ロールプレーイングの続きとまとめ（小山・赤木・唐川） 【課題】社会性や対人関係能力について、グループ単位でまとめる。

回数	内容
第8回	生徒理解と学級経営について（1） 講話・グループ討論・ロールプレーイング（小山・赤木・唐川）
第9回	生徒理解と学級経営について（2） グループ討論・ロールプレーイングの続きとまとめ（小山・赤木・唐川） 【課題】生徒理解と学級経営について、グループ単位でまとめる。
第10回	学級経営（ホームルーム）に関する学校現場（倉敷市立連島中学校・連島南中学校）の見学・調査（小山・赤木・唐川）
第11回	特別活動（部活動）に関する学校現場（倉敷市立連島中学校・連島南中学校）の見学・調査（小山・赤木・唐川）
第12回	補充授業等に関する学校現場（倉敷市立連島中学校・連島南中学校）の見学・調査（小山・赤木・唐川） 【課題】学校現場の見学・調査の成果をレポートにまとめる。
第13回	授業演習（1）模擬授業の実施による教科指導力の確認（小山・赤木・唐川） 予習：指導案作成
第14回	授業演習（2）モデル授業の実施とグループ討議・講評による教科指導力の確認とまとめ（小山・赤木・唐川） 予習：指導案作成
第15回	授業の成果と今後の課題に関する総括と履修カルテの完成（小山・赤木・唐川） 【課題】課題レポートの作成

授業外学習

学習時間の目安：授業準備と復習を合わせて各回４時間

授業準備：教育実習録、振り返りシート、履修カルテ、教職科目や教科科目で課された課題レポート、作品などのポートフォリオ分析を詳細に行うことを通して、グループ討論・ロールプレーで省察すべき具体的な観点を見つけておく。
復習：各内容に関するグループ討論の内容を整理してレポートを作成する。
　上記した省察の観点について、何をどのように改善することで資質の向上につながるのか、実行可能な具体策をレポート化する。

教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

適宜案内する。

備考

教育実習Ⅰ（事前事後指導）（77603）

通年

Student Teaching Ⅰ

教職科目

年次	３年
対象	24 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	１．０単位
担当教員	唐川千秋 赤木恒雄 小山悦司

授業の概要

事前指導では、教育実習に関する基礎的理解を深めるとともに、学校教育活動の一般的事項を理解し、教育実践に対する心構えと課題意識を養うことを目的としている。また、事後指導では実習校における現場実習の終了後、教育実践の成果を統合して、教員としての応用的・創造的な態度や能力を養成することをねらいとしている。
・教育実習の目的および内容・方法について理解し説明できる。
・学習指導案の作成等について理解し説明できる。
・模擬授業等の実施により、実践的な指導力を身につける。

【アクティブラーニング】作成した指導案をもとに模擬授業を行い、受講生間で相互評価・省察を行う。
【フィードバック】
・課題レポート、学習指導案について、添削・解説を行う。
・模擬授業を行い、受講生間での相互評価、教員による指導を行う。

到達目標

一般目標：事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。

到達目標
1） 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
2） 教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。

評価方法

レポート40%（到達目標1）、教育実習1 記録簿20%（到達目標1・2）、定期試験40%（到達目標1）により総合的に評価する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

「教育実習」の履修基準を充足しておくこと。
本科目は、教育職員免許状の申請に必須な科目であることから、一定の水準が要求される。履修カルテに載せているルーブリックを参考にして、各段階で身につけておくべき資質・能力を目標にして、しっかりした目的意識をもって履修しなければならない。
「教育実習I」の履修状況が不良のときは、現場実習への参加を認めないことがある。
※ 下記以外に、後期にも模擬授業を行う。

授業計画

回数	内容
第1回	教育実習序論・模擬授業1（小山・赤木・唐川）
第2回	教育実習の目的および内容・方法（小山・赤木・唐川）
第3回	生徒理解（カウンセリング・マインド）（唐川） 【課題レポート】「自己分析」
第4回	教育法規（同和教育を含む）（赤木） 【課題レポート】「人権教育」

回数	内容
第5回	学校教育の現状と課題１（小山・赤木・唐川）
第6回	学校教育の現状と課題２（教育実習校から講師を招聘）（小山・赤木・唐川） 【課題レポート】「学校教育の課題への取り組み」
第7回	障害をもつ児童・生徒の理解（唐川） 【小テスト】障害をもつ児童・生徒の指導
第8回	模擬授業2（小山・赤木・唐川） 予習：模擬授業の指導案作成
第9回	模擬授業３（小山・赤木・唐川） 予習：模擬授業の指導案作成
第10回	学習指導案の作成1（教科別）（小山・赤木・唐川） 予習：模擬授業の指導案作成
第11回	学習指導案の作成2（教科別）（小山・赤木・唐川） 予習：模擬授業の指導案作成
第12回	学習指導案の作成3（教科別）（小山・赤木・唐川） 予習：模擬授業の指導案作成
第13回	夏期休暇前模擬授業（小山・赤木・唐川）
第14回	教育実習実施後の評価および課題の検討（小山・赤木・唐川）
第15回	総合反省会（実習生、実習校教員、大学側教員が参加）（小山・赤木・唐川）

授業外学習

学習時間の目安：講義内容の復習、課題レポート作成を中心にして各回4時間

その他、以下の4点に十分な時間をかけて準備すること。
・教師にふさわしい一般教養の資質を高めるように、専門に偏らず幅広い読書・思考をする。
・学習指導要領、教科書、参考書等にもとづいて、担当教科の指導案を作成する。
・模擬授業に備えて、リハーサルを行い、指導案を修正する。
・教育実習後、振り返りシートを作成して、教育実習の成果・課題を見つける。

教科書

使用しない。「教育実習I」のテキストとプリントを配布する。

参考書

授業中に指示する。

備考

教育実習Ⅱ（現場実習Ａ）（77604）

通年

Student Teaching Ⅱ

教職科目

年次	３年
対象	24 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	３．０単位
担当教員	唐川千秋 赤木恒雄 小山悦司

授業の概要

教職課程において、これまで受講してきた成果を発揮して、実習協力校の中学校または高等学校で、観察・参加・授業実習などを通じて、教職の体験を積み、教員となるための基礎的な態度や能力を養成することを目的とする。前期に履修登録を行うが教育実習のスケジュールの都合上、評価は後期末になる。

・見学実習により、教育実習に対するレディネスを高める

・教員として最低限必要とされる実践的な指導力を身につける。

・実地体験により、教職への能力・適性について自己確認を行う。

到達目標

（1）観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項

一般目標：生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校の生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。

到達目標

1）生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。

2）指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。

3）教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。

4）学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。

（2）学習指導及び学級経営に関する事項

一般目標：大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識･理論･技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。

到達目標

1）学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。

2）学習指導に必要な基礎的技術（話法･板書･学習形態･授業展開･環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。

3）学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。

4）教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童又は生徒と関わることができる。

評価方法

実習記録、見学レポート、観察態度、振り返りシート等により到達目標（1）（2）について総合的に評価する。評価の比率は、それぞれ40%、40%、20%を基準とする。合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の申請に必須な科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

教育実習（現場実習）そのものが、授業外学習であるので、入念な準備と体調管理のもとに全力で取り組むこと。

授業計画

私立高等学校：学校概要等についての講話、校内見学・授業観察・課外活動

※観察実習予定の１年前に現場実習校での先輩の教育実習の様子を観察し、実習のイメージをより具体化する。

公立高等学校：学校概要等についての講話、校内見学・授業観察・課外活動観察

公立中学校：学校概要等についての講話、校内見学・授業観察・課外活動観察

事前オリエンテーション（実習校にて実施）
オリエンテーション（実習校にて実施）、開講式、教育方針説明、実習校担当教員ならびに実習生紹介及び打ち合わせ
実習生授業実施準備
学習指導案等作成指導
実習生授業観察及び授業実施１
実習生授業観察及び授業実施２
実習生授業観察及び授業実施３
実習生授業観察及び授業実施４
実習生代表研究授業
総合討論
反省会
レポート提出

授業外学習

実習記録および見学レポートの提出を求める。

教科書

使用しない。プリントを配布する。

参考書

適宜指示する。

備考

教育実習Ⅲ（現場実習Ｂ）（77605）

通年

Student Teaching Ⅲ

教職科目

年次	３年
対象	24 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	１．０単位
担当教員	唐川千秋 赤木恒雄 小山悦司

授業の概要

中学校教諭一種免許状を取得するための必修科目である。実習協力校の中学校または高等学校において、教育実習I・IIの成果を踏まえて、教員となるための態度や能力を深化・拡充することを目的としている。
・自己の実習活動を省察する能力、および課題解決能力を身につける。
・生徒との直接的な接触や実地体験を通じて、教職への能力・適性について自己確認を行う。

到達目標

（1）観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項
一般目標：生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校の生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。

到達目標
1）生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
2）指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。
3）教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。
4）学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。

（2）学習指導及び学級経営に関する事項
一般目標：大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識･理論･技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。

到達目標
1）学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。
2）学習指導に必要な基礎的技術（話法･板書･学習形態･授業展開･環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。
3）学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。
4）教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童又は生徒と関わることができる。

評価方法

実習記録、見学レポート、観察態度、振り返りシート等により到達目標（1）（2）について総合的に評価する。評価の比率は、それぞれ40%、40%、20%を基準とする。合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の申請に必須な科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。
教育実習（現場実習）そのものが、授業外学習であるので、入念な準備と体調管理のもとに全力で取り組むこと。

授業計画

オリエンテーション
教育実習IIIを踏まえた学習指導案作成
実習生授業実施準備１
実習生授業実施準備２
実習生授業実施準備３
実習生授業実施準備４

実習生授業実施準備５
実習生授業観察及び授業実施１
実習生授業観察及び授業実施２
実習生授業観察及び授業実施３
実習生授業観察及び授業実施４
授業観察及び実習生授業実施
実習生代表研究授業、総合討論、反省会
実習校担当教員総評、反省会
教育実習閉講式、大学側教員総評
※上記以外にも、積極的に学校行事などに参加して、行事の実施運営や生徒の指導補助を行う。

授業外学習

実習記録の提出を求める。

教科書

使用しない。

参考書

適宜指示する。

備考

道徳教育の理論と方法（77602）

前期

Study of Moral Education

教職科目

年次	３年
対象	23 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	上北彰

授業の概要

「道徳教育」とは、被教育者の「道徳性の発達」を促す教育だと言われている。では、その「道徳性」とは何なのか。どうすれば、「道徳性の発達」を促せるのか。「道徳教育」が単なる「徳目主義」に陥らないようにするためにはいかなる指導が可能なのか、等について考えていく。具体的にはまず、今日の学校および教育の現状と課題を概観し、「道徳教育」についての理解を深めていく。最後に道徳教育の目標である、「生きる力」を育て、道徳的判断力および実践力を高め、「道徳的主体性」を身につけさせるための指導のあり方について検討する。なお，授業では講義だけではなく、実際に授業を計画し、模擬授業を実践する等、主体的・能動的な学習の機会も設ける予定である。

到達目標

１、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
１）道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。
２）道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。
３）子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。
４）学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。

２、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
１）学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。
２）道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。
３）道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。
４）授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。
５）道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。
６）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

評価方法

定期試験 （80%）、授業に取組む姿勢[発言・態度等]（20%）
総合計60点以上を合格とする

注意事項

この授業は、「教育学原論」等の教職課程のどの授業科目とも関連付けて考えておかなければならない。したがって教員を目指す者として、あるいは教員として生きていく者は、既に単位を取得したからといって、ここで学んだ事柄をどこかにしまいこんで置くのではなく、その都度疑いを持って、「教育とは何か」(What)と「どう教育するか」(How)という問いを持ち続け、確認し復習する習慣を持ち続けていて欲しい。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（講義の目的）
第2回	道徳教育の現状
第3回	道徳教育の意義
第4回	人間観・教育観・学校観
第5回	道徳とは何か（１） —道徳の歴史（1）（西洋）
第6回	道徳とは何か（１） —道徳の歴史（2）（日本）
第7回	道徳とは何か（２） —徳目と道徳教育

回数	内容
第8回	道徳とは何か（３） —道徳と心理学
第9回	道徳とは何か（４） —道徳性の発達
第10回	「よさ」の構造 — 「よさ」を求める基本的要求と道徳
第11回	道徳の指導法（1）道徳教育の指導計画と道徳科学習指導案 —道徳的主体性の確立に向けて
第12回	道徳の指導法（2）道徳科における指導方法と評価
第13回	模擬授業（1）教材の特徴を踏まえた授業設計
第14回	模擬授業（2）振り返りと授業改善
第15回	まとめ —「よりよく生きる」ということ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
集中講義のため、4回分を単位として示します。

１回目～４回目
予習：中学校学習指導要領の、第１章 総則 および 第３章 特別の教科 道徳 を読み、その内容を確認しておく。とくにこの中で、「よりよく生きるための基盤となる道徳性」という記述があるが、「よりよく生きる」ということがどういうことか、各自考えておく。また、教員を目指すにあたって、自分自身は、どのような人間観、教育観、学校観をもって、これに臨んでいるのか、考えておく。

５回目～８回目…
予習：教育学原論および教育心理学で学んだ教育の歴史について、復習しておく。
復習：この回で学んだ教育あるいは道徳が、どのような人間観、教育観、学校観に基づいていたか確認する。

９回目～１２回目…
予習：「道徳的主体性」とはどのようなものなのか、考えておく。
復習：これまで学んできた様々な思想、心理学の研究等から、「道徳とは何か」を改めて考え、そこから「道徳的主体性」を育てる道徳教育の方法を自分なりに考えておく。

１３回目～１５回目…
予習：「学習指導要領の第３章 特別の教科 道徳の第１目標」に示されている「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養い」「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」にはどのようにしたら良いのか、具体的な授業計画を自分なりに作成してみる。また、「第２ 内容」を読み、ここに示された項目を、自分なら授業を展開する中でどのように扱うか、考えてみよう。
復習：模擬授業での経験を生かして、改めて授業の改善をこころがける。

教科書

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』文部科学省

参考書

渡邊弘編『学校道徳教育入門』東洋館出版社
小寺正一・藤永芳純編『新版道徳教育を学ぶ人のために』世界思想社
村井実『道徳は教えられるか 現代教育１０１選』国土社、『教育学入門（上・下）』講談社学術文庫、『「善さ」の構造』講談社学術文庫、『新・教育学のすすめ』小学館、『教育思想（上・下）』東洋館出版社
細田俊夫ほか編『新教育学大事典』全８巻、第一法規出版
徳永・堤・宮嶋・林・榊原『道徳教育論』ナカニシヤ出版
北野武『新しい道徳』幻冬舎

備考

特別活動の理論と方法（77601）

前期

Study of Extra Curricular Activities

教職科目

年次	２年
対象	23 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	佐溝理

授業の概要

特別活動は、各教科や道徳、総合的な探究の時間とともに、教育課程に位置づけられた学校教育の重要な柱です。中・高の特別活動には学級（ホームルーム）活動、生徒会活動、学校行事があります。これらの活動では、集団や社会の形成者としての見方や考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いの良さや可能性を発揮しながら、集団や自己の生活上の課題を通して、資質・能力を育成することを目指しています。

現場の教師には、自分の教科の学習指導はもちろん、特別活動の「教科書の無い」授業を企画し、実践する力が求められます。

この授業では、中・高における特別活動の内容とその具体的事例について考察するとともに、特別活動の計画や学習指導案を作成し、模擬授業等を取り入れて、特別活動の指導に当たる教師として必要な力量の育成を目的としています。

到達目標

・教師として必要とされる基礎的な特別活動の理論を理解する。
・特別活動の実践に必要な教材作成・学習指導案作成力を身につける。
・特別活動の授業を展開する実践的指導力を養う。

評価方法

授業への積極的参加態度（１０％）、事前・事後のレポート・小論文および講義ごとの課題レポート（５０％）、確認テスト・指導案（４０％）から総合的に判断します。
総合計60点以上を合格とする

注意事項

本科目は、教員免許取得のための必修科目です。
集中講義による開講となるので、全ての講義への出席が原則です。
将来、教職を志す強い意志を持った学生の主体的・積極的な学習態度を期待します。
また、講義中に適宜、特別活動で展開できるアクティビティを紹介します。

授業計画

１　講義の目的・概要および研究等のグループ編成
２　学校教育の現状と課題　特別活動と教育課程
３　特別活動の理論（１）
４　特別活動の理論（２）
５　特別活動の理論（３）　特別活動の理論のまとめ（確認テスト含む）
６　特別活動の学習指導案作成法
７　学級（ホームルーム）活動の指導案作成（１）
８　学級（ホームルーム）活動の指導案作成（２）
９　学校行事計画の作成
１０　学校行事計画の検討
１１　生徒会活動計画の作成
１２　生徒会活動計画の検討
１３　学級（ホームルーム）活動の模擬授業（１）
１４　学級（ホームルーム）活動の模擬授業（２）
１５　総まとめ（最終試験含む　学習指導案提出）

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

受講前学習　中学・高校時代に経験した特別活動（主に学校行事）のレポート作成
宿題　　学習指導案やレポートの作成および教材作成
受講後学習　小論文作成

教科書

教科書 高等学校学習指導要領解説－特別活動編－平成30年7月 文部科学省
また、毎時間配布の講師作成のレジュメにより講義・演習等を行います。

参考書

講義の中で適宜、紹介します。

備考

教育相談の理論と方法（77354）

後期

Study of Educational Counseling

教職科目

年次	１年
対象	26 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	鉄川大健

授業の概要

教育相談の基本は、『こころ』に寄り添い、話をじっくりと聴き、信頼関係を保つことが必要である。そのために、以下のような講義や演習を通して、教育相談の理論や方法について学習していく。

1. 教育相談の理論について究明する。
2. 人間関係構築の在り方とその方法について理解し、教育相談に活用する。
3. カウンセリング理論について理解を深める。
4. 児童生徒の多様性や問題を正確に把握し、児童生徒との関わり方について理解を深める。
5. 自己理解を深め、学校組織における自分の役割や自分で可能な支援を考える。

到達目標

１．教育相談の意義と理論
　１）学校における教育相談の意義と課題を理解している。
　２）教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。
２．教育相談の方法
　１）幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。
　２）学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。
　３）受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。
３．教育相談の展開
　１）職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。
　２）いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。
　３）教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している。
　４）地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。

評価方法

講義内容の理解についての定期試験（60%）
話の聴き方の演習（10%）
毎回の講義後に提出する小レポート（30%）
総合計60点以上を合格とする

注意事項

１）学生および教員が不快な思いをせずに授業を過ごせる受講態度に心がけること。
２）授業への積極的な参加に心がけること。

授業計画

第１回：教育相談（教育相談の意義、教育相談のねらい、生徒指導と教育相談）
第２回：カウンセリング理論(1)：来談者中心的アプローチ（来談者中心療法、カウンセリングマインド、教育相談における基本的態度）
第３回：カウンセリング理論(2)：精神力動論的アプローチ（精神分析学、分析心理学、個人心理学、子どもの発達段階の理解を教育相談につなげる）
第４回：カウンセリング理論(3)：認知行動論的アプローチ（行動療法、論理療法、認知行動療法、学習理論に基づく教育相談）
第５回：カウンセリング理論(4)：システム論的アプローチ（学校カウンセリングと家族臨床、リフレーミング、子どもを取り巻く環境に着目した教育相談）
第６回：自己理解 & ストレスとリラクゼーション〔自己理解、交流分析、ストレス、リラクゼーション法（筋弛緩法、自律訓練法、マインドフ

ルネス等）〕
第７回：人間関係の構築：基本的傾聴スキル & 他者尊重・他者理解（傾聴スキルの練習、マイクロ技法、体験学習）
第８回：子どもの発達を知る（愛着理論）
第９回：子どもの多様性：発達障害(1)〔①ASD（自閉症スペクトラム障害）②ADHD（注意欠如・多動症）〕
第１０回：子どもの多様性：発達障害(2) & その他〔③LD（学習障害）④知的能力障害 ⑤その他の精神症状 ⑥多文化共生 ⑦LGBTQ〕
第１１回：子どもに起こりうる問題：いじめ & 非行（いじめの現状、非行の現状、対応方法と教育相談）
第１２回：子どもに起こりうる問題：不登校（不登校の現状、対応方法と教育相談）
第１３回：子どもに起こりうる問題：虐待（虐待の現状、対応方法と教育相談）
第１４回：子どもの対応を考える（アセスメントと支援、ケース検討、グループ討議）
第１５回：総まとめ
定期試験

授業外学習

１）授業をしっかりと理解したい学生は、指定した教科書を事前に読んでおくことが望まれる。
２）授業内で学んだカウンセリング技法を、友人や家族等との会話の中において実践を試みること。
３）学習時間の目安：合計60時間

教科書

心とふれあう教育相談 卯月研次・後藤智子 編著 （2015）北樹出版

参考書

生徒指導提要 文部科学省 （2010） 教育図書
学級教育相談入門 有村久春 （2014） 金子書房
臨床心理学 玉瀬耕治・佐藤容子 編著 （2009） 学文社

備考

生徒指導論（進路指導を含む）（77303）

前期

Study of Student Guidance

教職科目

年次	２年
対象	23 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	加藤研治

授業の概要

授業の概要
教師として生徒の個性を生かし、開花するように援助することが生徒指導である。すなわち、生徒指導とは生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、将来において社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくための指導援助であり、個々の生徒の自己指導能力の育成を目指すものである。
本授業では、生徒指導に関する基礎的な理論と生徒指導上の具体例を通して、教師としての基礎的な資質を養うとともに、学生自身も自己指導能力を身に付け教師としての実践的な指導力を養成することを目的とする。※また、進路指導に関しては，進路指導・キャリア教育の実践例から，授業のあり方や体験活動、評価方法について学び，進路指導に関するガイダンスとカウンセリングの重要性を認識させ、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付けることを目的とする。さらに、教員採用試験にも寄与することも視野に入れる。（進路指導・キャリア教育の内容を記載。）
適宜，アクティブラーニングおよび構成的グループエンカウンターの実践を導入する予定である。

到達目標

授業の到達目標及びテーマ
１、生徒指導の意義や原理を理解する。
１）教育課程における生徒指導の位置付けを理解している。
２）各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解している。
３）集団指導・個別指導の方法原理を理解している。
４）生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方と違いを理解している。
２、児童及び生徒全体への指導
１）学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性を理解している。
２）基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方を理解している。
３）児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方を例示することができる。
３、個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導
１）校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容を理解している。
※高等学校教諭においては停学及び退学を含む。
２）暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点を理解している。
３）インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携の在り方を例示することができる。
４、進路指導・キャリア教育の意義及び理論
１）教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを理解している。
２）学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方を例示することができる。
３）進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解している。
５、ガイダンスとしての指導
１）職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解している。
２）主に全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解している。
６、カウンセリングとしての指導
１）生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用

の在り方を例示することができる。
２）キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法を説明することができる。

評価方法

(1) 講義への取り組み姿勢：１０％
(2) 課題提出とその内容：４０％
(3) 定期試験：５０％
総合計60点以上を合格とする

注意事項

本授業は、真に教師を志す学生諸君のための講座である。自らが教師の立場になった姿勢で授業に参加すること。居眠りや私語が目立つなどマナーや態度等に問題のある学生はその場で退出させる場合もある。出欠席の記録は講義終了前にレポートの提出で行なう。なお、内容がいい加減なレポートは出席とみなさない場合もあるので、注意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	授業の目的、概要および計画についてのガイダンス
第2回	生徒指導上の諸問題の現状と課題について
第3回	生徒指導の意義と課題
第4回	生徒指導の原理と人格の発達課題
第5回	生徒理解の方法
第6回	生徒指導と進路指導Ⅰ　（生き方の指導としての進路指導，進路指導の内容と組織）
第7回	生徒指導と進路指導Ⅱ（中・高等学校の進路指導の特徴と留意点，学校における進路指導の課題）
第8回	不登校生徒への支援の在り方
第9回	事例研究Ⅰ（暴力行為・懲戒・体罰等）
第10回	事例研究Ⅱ（いじめ等）
第11回	事例研究Ⅲ（インターネット・携帯等）
第12回	事例研究Ⅳ（進路相談（カウンセリングを含む）・進路情報の提供・ボランティア・就業体験等）
第13回	生徒指導・進路指導と法律
第14回	生徒指導・進路指導の機能を生かした教材開発及び教科外の教育活動
第15回	生徒指導・進路指導の機能を生かした学校組織と運営、まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

I 予習
(1)新聞，インターネット等で，つねにアンテナを高くして生徒指導に関するニュース等をチェックして，記録しておくこと。
(2)学習課題については，インターネット等で事前に調べ，次回には発表できるようにしておくこと。
II 復習
(1)授業後，再度授業を振り返って，学習内容を着実なものにしておくこと。
(2)学習内容で，さらに興味・関心を抱いた項目等については積極的に調べたり，質問すること。
III 課題内容
毎回，授業後課題レポート等を提出すること。時間内・期限を厳守して必ず提出すること。（出席にかえることもある）

教科書

教科書は使用しない。随時、プリントを配布する。

参考書

生徒指導提要（文科省）※文科省のサイトからダウンロードできるので，随時参考にすること。

備考

介護等体験の基礎（77306）

前期

Study of Nursing The Handicapped

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	黒川達矢 池田綱政 三宅飛翔

授業の概要

◆介護（福祉）に関する視点と動向を歴史的変遷から理解し学びを深める。
◆介護保険で運営されている各施設の特徴及び基本理念と介護実践内容の概要を学ぶ。
◆DVD などの資料や現場職員を交えたディスカッションで、要介護者等の心身の状態やコミュニケーション方法を学ぶ。
◆介護に必要な対象の理解と基本的な介護知識と基本的な援助技術を学ぶ。
◆実際に介護技術などの体験を通して介護者、利用者への相互理解を深める。
◆介護体験に臨む心構えや留意点を把握する。
◆介護の安全確保とリスクマネジメントを学ぶ。

到達目標

教職を目指す学生が介護等体験において有益な体験学習ができるよう、福祉・介護における法律や高齢者及び障がい者の身体的な基礎的な知識をはじめ、簡単な介護技術、コミュニケーションスキルの習得を目標とする。

評価方法

授業に取り組む姿勢（４０％）、授業毎のレポート提出（３０％）、期末レポート提出（３０％）で評価する。

注意事項

評価には期末レポートの提出と規定の出席時間を満たしていることが必要となります。
授業計画の内容は進捗状況により前後することがあります。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（黒川）
第2回	高齢者福祉について（黒川）
第3回	日本における高齢者介護について（体験を行う施設入所者を取り巻く環境理解）（黒川）
第4回	介護保険の現状（介護保険に関する理解）（池田）
第5回	援助の概論（要介護者に対する援助について）（三宅）
第6回	援助の概論（要介護者に対する援助について）（三宅）
第7回	精神保健（高齢者の心理）（三宅）
第8回	介護技術１（介護の実例・・・歩行、入浴等）（池田・三宅）
第9回	介護技術２（介護の実例・・・食事、排泄等）（池田・三宅）
第10回	リハビリ・健康管理（介護予防コーディネーション・リハビリについて）（池田）
第11回	レクリエーション（日常におけるリハビリテーションの役割など）（三宅）
第12回	介護施設の現状（一般的な視点から見た介護施設）（池田）
第13回	施設説明（体験先となる施設等の紹介）（三宅）

回数	内容
第14回	一般教養・マナー等（性格判断・コミュニケーションなど）（黒川）
第15回	施設等体験に関する留意点・総まとめ（黒川）

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

宿題や予習の具体的な内容や方法については、授業中に詳しく指示する。

教科書

資料を適宜配布

参考書

チャレンジ介護等体験――共生時代における障害理解のエッセンス （ナカニシ出版）

備考

介護等体験の基礎（77355）

後期

Study of Nursing The Handicapped

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	黒川達矢 池田綱政 三宅飛翔

授業の概要

◆介護（福祉）に関する視点と動向を歴史的変遷から理解し学びを深める。
◆介護保険で運営されている各施設の特徴及び基本理念と介護実践内容の概要を学ぶ。
◆DVD などの資料や現場職員を交えたディスカッションで、要介護者等の心身の状態やコミュニケーション方法を学ぶ。
◆介護に必要な対象の理解と基本的な介護知識と基本的な援助技術を学ぶ。
◆実際に介護技術などの体験を通して介護者、利用者への相互理解を深める。
◆介護体験に臨む心構えや留意点を把握する。
◆介護の安全確保とリスクマネジメントを学ぶ。

到達目標

教職を目指す学生が介護等体験において有益な体験学習ができるよう、福祉・介護における法律や高齢者及び障がい者の身体的な基礎的な知識をはじめ、簡単な介護技術、コミュニケーションスキルの習得を目標とする。

評価方法

授業に取り組む姿勢（４０％）、授業毎のレポート提出（３０％）、期末レポート提出（３０％）で評価する。

注意事項

評価には期末レポートの提出と規定の出席時間を満たしていることが必要となります。
授業計画の内容は進捗状況により前後することがあります。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（黒川）
第2回	高齢者福祉について（黒川）
第3回	日本における高齢者介護について（体験を行う施設入所者を取り巻く環境理解）（黒川）
第4回	介護保険の現状（介護保険に関する理解）（池田）
第5回	援助の概論（要介護者に対する援助について）（三宅）
第6回	医学の予備知識（高齢者がもつ一般的な病理説明）（池田）
第7回	精神保健（高齢者の心理）（三宅）
第8回	介護技術１（介護の実例・・・歩行、入浴等）（池田・三宅）
第9回	介護技術２（介護の実例・・・食事、排泄等）（池田・三宅）
第10回	リハビリ・健康管理（介護予防コーディネーション・リハビリについて）（池田）
第11回	レクリエーション（日常におけるリハビリテーションの役割など）（三宅）
第12回	介護施設の現状（一般的な視点から見た介護施設）（池田）
第13回	施設説明（体験先となる施設等の紹介）（三宅）

回数	内容
第14回	一般教養・マナー等（性格判断・コミュニケーションなど）（黒川）
第15回	施設等体験に関する留意点・総まとめ（黒川）

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

宿題や予習の具体的な内容や方法については、授業中に詳しく指示する。

教科書

資料を適宜配布

参考書

チャレンジ介護等体験――共生時代における障害理解のエッセンス （ナカニシ出版）

備考

道徳の理論と指導法（77608）

前期

Theory and teaching methods of moral

教職科目

年次	３年
対象	24 ～ 24 K,N,I,B,Y,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	上北彰

授業の概要

「道徳教育」とは、被教育者の「道徳性の発達」を促す教育だと言われている。では、その「道徳性」とは何なのか。どうすれば、「道徳性の発達」を促せるのか。「道徳教育」が単なる「徳目主義」に陥らないようにするためにはいかなる指導が可能なのか、等について考えていく。具体的にはまず、今日の学校および教育の現状と課題を概観し、「道徳教育」についての理解を深めていく。最後に道徳教育の目標である、「生きる力」を育て、道徳的判断力および実践力を高め、「道徳的主体性」を身につけさせるための指導のあり方について検討する。なお，授業では講義だけではなく、実際に授業を計画し、模擬授業を実践する等、主体的・能動的な学習の機会も設ける予定である。

到達目標

１、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
１）道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。
２）道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。
３）子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。
４）学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。

２、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
１）学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。
２）道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。
３）道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。
４）授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。
５）道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。
６）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

評価方法

定期試験 （80%）、授業に取組む姿勢[発言・態度等]（20%）
総合計60点以上を合格とする

注意事項

この授業は、「教育学原論」等の教職課程のどの授業科目とも関連付けて考えておかなければならない。したがって教員を目指す者として、あるいは教員として生きていく者は、既に単位を取得したからといって、ここで学んだ事柄をどこかにしまいこんで置くのではなく、その都度疑いを持って、「教育とは何か」(What)と「どう教育するか」(How)という問いを持ち続け、確認し復習する習慣を持ち続けていて欲しい。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（講義の目的）
第2回	道徳教育の現状
第3回	道徳教育の意義
第4回	人間観・教育観・学校観
第5回	道徳とは何か（１） —道徳の歴史（1）（西洋）
第6回	道徳とは何か（１） —道徳の歴史（2）（日本）
第7回	道徳とは何か（２） —徳目と道徳教育

回数	内容
第8回	道徳とは何か（３） —道徳と心理学
第9回	道徳とは何か（４） —道徳性の発達
第10回	「よさ」の構造 — 「よさ」を求める基本的要求と道徳
第11回	道徳の指導法（1）道徳教育の指導計画と道徳科学習指導案 —道徳的主体性の確立に向けて
第12回	道徳の指導法（2）道徳科における指導方法と評価
第13回	模擬授業（1）教材の特徴を踏まえた授業設計
第14回	模擬授業（2）振り返りと授業改善
第15回	まとめ —「よりよく生きる」ということ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
集中講義のため、4回分を単位として示します。

１回目～４回目
予習：中学校学習指導要領の、第１章 総則 および 第３章 特別の教科 道徳 を読み、その内容を確認しておく。とくにこの中で、「よりよく生きるための基盤となる道徳性」という記述があるが、「よりよく生きる」ということがどういうことか、各自考えておく。また、教員を目指すにあたって、自分自身は、どのような人間観、教育観、学校観をもって、これに臨んでいるのか、考えておく。

５回目～８回目…
予習：教育学原論および教育心理学で学んだ教育の歴史について、復習しておく。
復習：この回で学んだ教育あるいは道徳が、どのような人間観、教育観、学校観に基づいていたか確認する。

９回目～１２回目…
予習：「道徳的主体性」とはどのようなものなのか、考えておく。
復習：これまで学んできた様々な思想、心理学の研究等から、「道徳とは何か」を改めて考え、そこから「道徳的主体性」を育てる道徳教育の方法を自分なりに考えておく。

１３回目～１５回目…
予習：「学習指導要領の第３章 特別の教科 道徳の第１目標」に示されている「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養い」「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」にはどのようにしたら良いのか、具体的な授業計画を自分なりに作成してみる。また、「第２ 内容」を読み、ここに示された項目を、自分なら授業を展開する中でどのように扱うか、考えてみよう。
復習：模擬授業での経験を生かして、改めて授業の改善をこころがける。

教科書

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』文部科学省

参考書

渡邊弘編『学校道徳教育入門』東洋館出版社
小寺正一・藤永芳純編『新版道徳教育を学ぶ人のために』世界思想社
村井実『道徳は教えられるか 現代教育１０１選』国土社、『教育学入門（上・下）』講談社学術文庫、『「善さ」の構造』講談社学術文庫、『新・教育学のすすめ』小学館、『教育思想（上・下）』東洋館出版社
細田俊夫ほか編『新教育学大事典』全８巻、第一法規出版
徳永・堤・宮嶋・林・榊原『道徳教育論』ナカニシヤ出版
北野武『新しい道徳』幻冬舎

備考

特別活動の指導法（77606）

前期

Teaching Method of Special Activities

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 24 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	佐溝理

授業の概要

特別活動は、各教科や道徳、総合的な探究の時間とともに、教育課程に位置づけられた学校教育の重要な柱です。中・高の特別活動には学級（ホームルーム）活動、生徒会活動、学校行事があります。これらの活動では、集団や社会の形成者としての見方や考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いの良さや可能性を発揮しながら、集団や自己の生活上の課題を通して、資質・能力を育成することを目指しています。

現場の教師には、自分の教科の学習指導はもちろん、特別活動の「教科書の無い」授業を企画し、実践する力が求められます。

この授業では、中・高における特別活動の内容とその具体的事例について考察するとともに、特別活動の計画や学習指導案を作成し、模擬授業等を取り入れて、特別活動の指導に当たる教師として必要な力量の育成を目的としています。

到達目標

・教師として必要とされる基礎的な特別活動の理論を理解する。
・特別活動の実践に必要な教材作成・学習指導案作成力を身につける。
・特別活動の授業を展開する実践的指導力を養う。

評価方法

授業への積極的参加態度（１０％）、事前・事後のレポート・小論文および講義ごとの課題レポート（５０％）、確認テスト・指導案（４０％）から総合的に判断します。
総合計60点以上を合格とする

注意事項

本科目は、教員免許取得のための必修科目です。

集中講義による開講となるので、全ての講義への出席が原則です。

将来、教職を志す強い意志を持った学生の主体的・積極的な学習態度を期待します。

また、講義中に適宜、特別活動で展開できるアクティビティを紹介します。

授業計画

１ オリエンテーションと特別活動の全体目標について
２ 学校教育の現状と課題 特別活動と教育課程の関連について
３ 特別活動の基本的性格、教育的意義および他領域との関連について
４ 特別活動の特質について（学級・ＨＲ活動、委員会活動、学校行事）
５ 理論確認テスト① 指導計画の作成と内容の取り扱いについて
６ 特別活動の学習指導案について
７ 学級活動・ＬＨＲ活動の学習指導案Ａの作成（１）
８ 学級活動・ＬＨＲ活動の学習指導案Ａの作成（２）と内容検討
９ 学校行事年間計画について
１０ 学校行事年間計画の作成について
１１ 生徒会活動年間計画および作成について
１２ 学校行事年間計画・生徒会活動年間計画の発表と内容検討
１３ 学生によるＬＨＲ模擬授業の実施と内容検討（１）
１４ 学生によるＬＨＲ模擬授業の実施と内容検討（２）
１５ 理論確認テスト② ＬＨＲ学習指導案Ｂ作成と講義のまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

受講前学習　中学・高校時代に経験した特別活動（主に学校行事）のレポート作成
宿題　　学習指導案やレポートの作成および教材作成
受講後学習　小論文作成

教科書

教科書 高等学校学習指導要領解説－特別活動編－平成30年7月 文部科学省
また、毎時間配布の講師作成のレジュメにより講義・演習等を行います。

参考書

講義の中で適宜、紹介します。

備考

生徒・進路指導論（77607）

前期

Principles and Methods of Student Guidance and Career Advice

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 24 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	加藤研治

授業の概要

授業の概要

教師として生徒の個性を生かし、開花するように援助することが生徒指導である。すなわち、生徒指導とは生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、将来において社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくための指導援助であり、個々の生徒の自己指導能力の育成を目指すものである。

本授業では、生徒指導に関する基礎的な理論と生徒指導上の具体例を通して、教師としての基礎的な資質を養うとともに、学生自身も自己指導能力を身に付け教師としての実践的な指導力を養成することを目的とする。※また、進路指導に関しては，進路指導・キャリア教育の実践例から，授業のあり方や体験活動、評価方法について学び，進路指導に関するガイダンスとカウンセリングの重要性を認識させ、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付けることを目的とする。さらに、教員採用試験にも寄与することも視野に入れる。（進路指導・キャリア教育の内容を記載。）

適宜，アクティブラーニングおよび構成的グループエンカウンターの実践を導入する予定である。

到達目標

授業の到達目標及びテーマ

１、生徒指導の意義や原理を理解する。

１）教育課程における生徒指導の位置付けを理解している。

２）各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解している。

３）集団指導・個別指導の方法原理を理解している。

４）生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方と違いを理解している。

２、児童及び生徒全体への指導

１）学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性を理解している。

２）基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方を理解している。

３）児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方を例示することができる。

３、個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導

１）校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容を理解している。

※高等学校教諭においては停学及び退学を含む。

２）暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点を理解している。

３）インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携の在り方を例示することができる。

４、進路指導・キャリア教育の意義及び理論

１）教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを理解している。

２）学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方を例示することができる。

３）進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解している。

５、ガイダンスとしての指導

１）職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解している。

２）主に全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解している。

６、カウンセリングとしての指導

１）生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用

の在り方を例示することができる。
２）キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法を説明することができる。

評価方法

(1) 講義への取り組み姿勢：１０％
(2) 課題提出とその内容：４０％
(3) 定期試験：５０％
総合計60点以上を合格とする

注意事項

本授業は、真に教師を志す学生諸君のための講座である。自らが教師の立場になった姿勢で授業に参加すること。居眠りや私語が目立つなどマナーや態度等に問題のある学生はその場で退出させる場合もある。出欠席の記録は講義終了前にレポートの提出で行なう。なお、内容がいい加減なレポートは出席とみなさない場合もあるので、注意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	授業の目的、概要および計画についてのガイダンス
第2回	生徒指導上の諸問題の現状と課題について
第3回	生徒指導の意義と課題
第4回	生徒指導の原理と人格の発達課題
第5回	生徒理解の方法
第6回	生徒指導と進路指導Ⅰ　（生き方の指導としての進路指導，進路指導の内容と組織）
第7回	生徒指導と進路指導Ⅱ（中・高等学校の進路指導の特徴と留意点，学校における進路指導の課題）
第8回	不登校生徒への支援の在り方
第9回	事例研究Ⅰ（暴力行為・懲戒・体罰等）
第10回	事例研究Ⅱ（いじめ等）
第11回	事例研究Ⅲ（インターネット・携帯等）
第12回	事例研究Ⅳ（進路相談（カウンセリングを含む）・進路情報の提供・ボランティア・就業体験等）
第13回	生徒指導・進路指導と法律
第14回	生徒指導・進路指導の機能を生かした教材開発及び教科外の教育活動
第15回	生徒指導・進路指導の機能を生かした学校組織と運営、まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

I 予習
(1)新聞，インターネット等で，つねにアンテナを高くして生徒指導に関するニュース等をチェックして，記録しておくこと。
(2)学習課題については，インターネット等で事前に調べ，次回には発表できるようにしておくこと。
II 復習
(1)授業後，再度授業を振り返って，学習内容を着実なものにしておくこと。
(2)学習内容で，さらに興味・関心を抱いた項目等については積極的に調べたり，質問すること。
III 課題内容
毎回，授業後課題レポート等を提出すること。時間内・期限を厳守して必ず提出すること。（出席にかえることもある）

教科書

教科書は使用しない。随時、プリントを配布する。

参考書

生徒指導提要（文科省）※文科省のサイトからダウンロードできるので，随時参考にすること。

備考

教育学原論（77203）

前期

Principles of Pedagogy

教職科目

年次	１年
対象	26 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	高木加奈絵

授業の概要

本授業では、実際の学校現場でも直面するであろう「教えるとは何か？」という問いについて、学校教育の歴史的展開と、様々な思想家の思想から学ぶ。その際、教職に就こうとする者にとって、何を、どう教えるのかだけではなく、児童生徒に何を身につけさせるのかを考えるための場ともする。

【アクティブラーニング】一部のトピックでグループワークを行う。
【フィードバック】毎回の授業の後に出す宿題に対して、コメントを行う。

到達目標

１．教育の基本的概念
１）教育学の諸概念や教育の本質、目的を説明できるようになる。
２）子ども・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。
２．教育に関する歴史
１）近代教育の成立を、近代になってからの社会や家庭等の認識の変化の観点から説明できる。
２）現代社会における教育課題を、歴史的な視点から考察できる。
３．教育に関する思想
教育学における代表的な思想家の思想を理解している。

評価方法

授業後に出される宿題30%、定期試験70%の総合点で評価する。合計60点以上を合格とする。

注意事項

１．授業後に課される宿題はすべて提出することが当然であろうが、特に宿題を5回以上提出しなかった場合は、その時点で単位を与えないので、注意すること。
２．課題をメール等で提出させるので、PCやスマートフォン等のネット環境を整えておくことが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス—教育学を学ぶ意義— 予習：教科書の「第１章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第2回	子どもの誕生と近代家族 予習：教科書の「第３章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第3回	近代学校と義務教育の成立 予習：教科書の「第２章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第4回	17世紀の教育と教授学の成立（１）—コメニウスの思想に着目して— 予習：教科書の「第５章１節」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第5回	17世紀の教育と教授学の成立（２）—コメニウスの世界図絵を考察する— 予習：コメニウスの『世界図絵』を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。

回数	内容
第6回	発達に沿った教育という思想―18世紀・19世紀の教育思想― 予習：教科書の「第５章3節」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第7回	20世紀の教育と新教育運動 予習：教科書の「第７章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第8回	明治期の教育 予習：教科書の「第９章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第9回	大正新教育 予習：教科書の「第10章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第10回	戦時下の学校と教育 予習：教科書の「第11章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第11回	戦後教育改革 予習：教科書の「第12章１節」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第12回	高度経済成長期の教育 予習：教科書の「第12章2節」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第13回	学校信仰の揺らぎと脱学校 予習：教科書の「第13章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第14回	第三の教育改革 予習：「第三の教育改革」という言葉を調べておく。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第15回	ジョン・デューイの思想から考えるアクティブラーニングの意義 予習：「ジョン・デューイ」について調べておく。 復習：授業後に課された宿題を解く。

授業外学習

予習：教科書の該当ページを読み、概要を把握しておく。

復習：授業後に出された課題を解き、前回の授業について整理し、理解しておく。

以上の活動や準備等に、合計して60時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

宇内一文編『教職のための学校と教育の思想と歴史』2018年、三恵社。978-4864877466

参考書

授業中に適宜提示する。

備考

教育行政学（77107）

前期

Educational Administration

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	高木加奈絵

授業の概要

学校での教育活動を支えるのは、教育行政制度の重要な役割である。こうした教育行政制度に関する基本的な制度や、それに対する様々な論者の理論について学ぶ。このことを通して、学校での教育活動がよりよくなるための教育行政の在り方を考える。

【アクティブラーニング】一部のトピックでグループワークを行う。
【フィードバック】毎回の授業の後に出す宿題に対して、コメントを行う。

到達目標

１．教育に関する制度的事項
1) 公教育の原理及び理念を理解している。
2) 公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。
3) 教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。
4) 教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。

２．学校と地域との連携
1) 地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。
2) 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。

３．学校安全への対応
1) 学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。
2) 生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解している。

評価方法

授業後に出される宿題30%、定期試験70%の総合点で評価する。合計60点以上を合格とする。

注意事項

１．授業後に課される宿題はすべて提出することが当然であろうが、特に宿題を5回以上提出しなかった場合は、その時点で単位を与えないので、注意すること。
２．課題をメール等で提出させるので、PCやスマートフォン等のネット環境を整えておくことが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス—教育行政学を学ぶ意義— 予習：教科書を購入し、気になる箇所を一読する。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第2回	誰が教育政策を作っているのか？ 予習：教科書の「第1章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第3回	国と地方の教育政策形成システム 予習：教科書の「第2章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。

回数	内容
第4回	教育基本法と教育行政 予習：教育基本法の新旧対照表を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第5回	一条校と義務教育 予習：「一条校」、「義務教育」という言葉を調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第6回	教育目的の法定 予習：配布した論文を読んでくる。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第7回	教育委員会制度の歴史と制度変更 予習：教育委員会制度について調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第8回	教育委員会制度の現在と教育振興基本計画 予習：教育振興基本計画について調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第9回	教育課程行政と教科書制度 予習：教科書の「第10章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第10回	主要な教育裁判の判例 予習：伝習館高校裁判について調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第11回	教育裁判を支えた論理 予習：国民の教育権論について調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第12回	学校と地域の連携 予習：事前に配布した資料を読んでくる。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第13回	学校安全と教育行政 予習：事前に配布した資料を読んでくる。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第14回	社会教育 予習：教科書の「第8章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第15回	教育改革の国際比較 予習：いくつかの国の教育改革について調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。

授業外学習

予習：教科書の該当ページを読み、概要を把握しておく。

復習：授業後に出された課題を解き、前回の授業について整理し、理解しておく。

以上の活動や準備等に、合計して60時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

勝野正章・藤本典裕（編）『改訂新版 教育行政学』2015年、学文社。978-4762024900

参考書

授業中に適宜提示する。

備考

教育課程論（77157）

後期

Theory of Curriculum and Teaching

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	高木加奈絵

授業の概要

教育課程の編成は、教員が教育活動をする際に最も重要な職務の一つである。本授業では、教育課程編成にあたって重要な学習指導要領の内容の変遷や、教育課程編成の基本的な考え方、評価の仕方を学ぶ。この際、今般の学習指導要領の改訂で導入されたカリキュラム・マネジメントの意義を学生に考えさせる。

【アクティブラーニング】一部のトピックでグループワークを行う。
【フィードバック】毎回の授業の後に出す宿題に対して、コメントを行う。

到達目標

到達目標
１．教育課程の意義
１）学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を説明できる。
２）学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を説明できる。
３）教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。

２．教育課程編成の方法
１）教育課程編成の基本原理を理解している。
２）教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。
３）単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童及び生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。

３．カリキュラム・マネジメント
１）学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を説明できる。
２）カリキュラム評価の基礎的な考え方を説明できる。

評価方法

授業後に出される宿題30%、定期試験70%の総合点で評価する。合計60点以上を合格とする。

注意事項

１．授業後に課される宿題はすべて提出することが当然であろうが、特に宿題を5回以上提出しなかった場合は、その時点で単位を与えないので、注意すること。
２．課題をメール等で提出させるので、PCやスマートフォン等のネット環境を整えておくことが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス—教育課程論を学ぶ意義— 予習：教育課程という言葉を調べてくること。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第2回	教育課程の意義 予習：教育課程編成が何に基づいてなされているのかを調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。

回数	内容
第3回	教育課程の基本原理 予習：参考書の「第4章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第4回	教育課程の変遷（１）―経験主義から系統主義へ― 予習：経験主義、系統主義という言葉を調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第5回	教育課程の変遷（２）―「ゆとり」と新学力観― 予習：新学力観という言葉を調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第6回	教育課程の変遷（３）―「ゆとり教育」と生きる力― 予習：生きる力という言葉を調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第7回	教育課程の編成（幼・小） 予習：学習指導要領の該当箇所を読んでくる。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第8回	教育課程の編成（中・高） 予習：学習指導要領の該当箇所を読んでくる。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第9回	教育課程の編成（特別支援学校） 予習：学習指導要領の該当箇所を読んでくる。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第10回	カリキュラム・マネジメント 予習：学習指導要領の該当箇所を読んでくる。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第11回	カリキュラム評価 予習：教育評価の種類を調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第12回	教科書検定制度と教科書使用義務 予習：教科書検定制度について調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第13回	教科書裁判 予習：家永教科書裁判について調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第14回	国際学力調査とカリキュラム 予習：PISA、TIMSS調査について調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第15回	よりよい教育を目指した教育課程編成に向けて 予習：ここまで学んだことをもとに、「よりよい教育課程編成」とは何かについて、考えて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。

授業外学習

予習：教科書の該当ページを読み、概要を把握しておく。

復習：授業後に出された課題を解き、前回の授業について整理し、理解しておく。

以上の活動や準備等に、合計して60時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

田中耕治ほか『有斐閣アルマ 新しい時代の教育課程 第4版』2018年、有斐閣。978-4641221079
文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 総則編』2017年。9784827815597
文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年度告示）解説 総則編』2018年。9784491036397

備考

教職論（77158）

後期

Introduction to　Teaching Profession

教職科目

年次	２年
対象	25 ～ 18 K,N,I,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	高木加奈絵

授業の概要

教員とは、いかに養成され、いかなる地位や役割を期待されてきたのかに関して、戦前・戦後の教育制度や国際比較を通して、基本的な論理や事項について学ぶ。このことを通して、教員という進路選択をした際に、学び続ける教員となる必要性があることを自覚する。

【アクティブラーニング】一部のトピックでグループワークを行う。
【フィードバック】毎回の授業の後に出す宿題に対して、コメントを行う。

到達目標

到達目標
１．教職の意義
１）公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。
２）進路選択に向けて、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を説明できる。

２．教員の役割
１）教職観の変遷について、説明できる。
２）今日の教員に求められている基礎的な資質能力を説明できる。

３．教員の職務内容
１）教員に課せられている服務上・身分上の義務及び身分保障について説明できる。
２）教員研修の意義や制度上の位置づけ、専門職としての教員に求められる態度を理解している。

４．チーム学校運営への対応
校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。

評価方法

授業後に出される宿題30%、定期試験70%の総合点で評価する。合計60点以上を合格とする。

注意事項

１．授業後に課される宿題はすべて提出することが当然であろうが、特に宿題を5回以上提出しなかった場合は、その時点で単位を与えないので、注意すること。
２．課題をメール等で提出させるので、PCやスマートフォン等のネット環境を整えておくことが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス—教職論を学ぶ意義— 予習：教科書を購入し、気になる箇所を一読する。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第2回	教職の意義 予習：教科書の「序章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第3回	学校と教員の歴史 予習：教科書の「第1章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。

回数	内容
第4回	戦前の教員養成制度 予習：教科書の「第2章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第5回	戦後の教員養成制度 予習：教科書の「第2章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第6回	戦前の教員身分 予習：教科書の「第5章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第7回	戦後の教員身分 予習：教科書の「第5章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第8回	教員養成・教員身分の国際比較 予習：いくつかの国の教員の状況について、調べて来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第9回	教師聖職論、教師労働者論 予習：教科書の「第3章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第10回	専門職としての教員 予習：教科書の「第3章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第11回	教員の研修 予習：教科書の「第6章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第12回	校務分掌組織 予習：授業前に配布したプリントで学習して来る。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第13回	チーム学校 予習：中央教育審議会の答申を読んでくる。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第14回	進路としての教職 予習：教科書の「第7章」を読む。 復習：授業後に課された宿題を解く。
第15回	「よい先生」とは何か？ 予習：ここまでの授業を受けて学んだ内容をもとに、「よい先生」について考察してくる。 復習：授業後に課された宿題を解く。

授業外学習

予習：教科書の該当ページを読み、概要を把握しておく。

復習：授業後に出された課題を解き、前回の授業について整理し、理解しておく。

以上の活動や準備等に、合計して60時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

羽田積男・関川悦雄（編）『Next教科書シリーズ 現代教職論』2016年、弘文堂。978-4335002205

参考書

授業中に適宜提示する。

備考